

北信地区社会教育委員連絡協議会活動情報誌

地域・人・かかわりを求めて

第 39 集



令和 7 年度

北信地区社会教育委員連絡協議会

Vol.39 目次

発刊のあいさつ 会長 羽田 吉彦 …2

I 北信地区社会教育委員連絡協議会 1年間の歩み …3

II 研修会の記録

1 北信地区社会教育委員連絡協議会総会及び地区研修会感想まとめ …5

2 CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会感想まとめ …10

3 地域ぐるみの共育フォーラム 兼 北信地区社会教育研究大会感想まとめ …12

4 第36回長野県社会教育研究大会

第4分科会発表資料 飯綱町 …23

第36回長野県社会教育研究大会に参加して 副会長 黒岩 裕子 …46

5 第56回関東甲信越静社会教育研究大会に参加して 羽田吉彦 齊藤英明 …47

III 市町村社会教育委員連絡協議会の活動の様子

長野市…53 須坂市…57 中野市…61 飯山市…63 千曲市…66 坂城町…69

小布施町…72 高山村…76 山ノ内町…78 木島平村…80 野沢温泉村…81

信濃町…83 飯綱町…84 小川村…87 栄村…90

IV 北信地区社会教育委員連絡協議会会則 …91

V 北信地区社会教育委員名簿 …92

あとがき 副会長 小林 京子 …93

発刊のあいさつ

北信地区社会教育委員連絡協議会 会長 羽田吉彦（山ノ内町）

この1年も、大きな変化があった年だったと感じます。1月にアメリカの大統領が就任し関税政策などで世界中を振り回しました。日本初の女性総理が誕生し、国内の政党は離合集散をしながら、早くも解散選挙と激しく動いています。身近なところでは、物価が上がり続け、その中でも、お米の値段の上がり方は令和の米騒動という言葉通り、おそらく私たちにとっても初めての大きな変化でした。

こんな時代ですが、私たちの普段の活動は人と人の繋がりを大切にしながら変わらずに続けていきたいものです。こんな時だからこそ、社会教育は更に重要性を増して、地域に暮らす人たちに、心の豊かさを届けることが出来るのではないのでしょうか。

北信地区としての主な事業は以下の3つでした。

・**地区総会・地区研修会** 5月20日小布施町公民館において開催しました。総会後の地区研修会では、小布施町社会教育委員5人の皆さんから、それぞれの立場での様々な活動の報告がありました。後半ではグループワークも行い充実した研修となりました。

・**CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会** 5月27日県立長野図書館において開催されました。好評だった昨年度に続き、講師に県の油井玲子指導主事、文科省CSマイスターの猿渡智衛氏を迎え、コミュニティスクールと地域学校協働活動に焦点を当てた内容でした。

・**現地研修 会場：野沢温泉村** 9月3日第2回理事会に合わせて高野辰之記念館、おぼろ月夜の館で行いました。高野辰之は、当時の豊田村、現在の中野市に生まれ、野沢温泉村で亡くなった郷土の偉人として作詞家として有名です。本来の仕事であった学者としての多彩な功績や研究について学ぶことが出来ました。

・**地域ぐるみの共育フォーラム** 11月1日北信地区社会教育研究大会を兼ねて、中野市豊田文化センターで開催されました。講演会では、清泉大学短期大学部こども学科、山崎浩教授が「音楽でつなぐ絆～世代をこえて結ぶ『声』の力」と題して、ピアノの演奏や歌も交えての話をお聞きしました。分科会は、社会教育士の舟越暁さんが「社会教育士が取り組む地域での学び」、長野大学ちゅうろすの皆さんが「大学生による子どもたちの居場所づくり」、木島平村社会教育委員の滝沢良一さんが「笑顔が繋ぐ多世代交流」の3つが開催されました。発表に携わった皆さんに感謝いたします

また、長野県社会教育研究大会は9月8日に行われ、第4分科会において飯綱町社会教育委員の小林悦夫さんから「地域の子供を地域で育てる」と題して、通学合宿についての発表をいただきました。大変ご苦勞様でした。

一年間、北信地区15市町村の皆さんに支えていただき、何とか無事に事業を進めることが出来ました。そして、その事業に参加している皆さんに一つでも、地域に持ち帰ってもらえるような学びを提供できていればとても嬉しく思います。去年は9月の理事会としては初めて現地研修を行いました。そのことを決める際にも、理事の皆さんから活発な意見が出されたことは、皆さんの参加意識の高さゆえだと思えます。今後も皆さんの思っていることや声を聴きながら、時代のニーズに合った事業を進めていきたいと思っています。どんな地域にもそれぞれの課題はあるとは思いますが、無理せず、やれる範囲で、出来ることを楽しんで行く。そのことはどんな活動であったとしても必ずその地域やその社会を元気にしていると私は信じています。

I 北信地区社会教育委員連絡協議会 1年間の歩み

1 長野県社会教育委員連絡協議会総会 6月19日(木) 於 オンライン 長野県庁

- (1) 役員及び監事選出
- (2) 総会議事 令和6年度事業・決算報告
令和7年度事業計画(案)・予算(案)
- (3) その他 会則確認など 変更

2 北信地区社会教育委員連絡協議会 定期総会・地区研修会 5月20日(火) 於:小布施町公民館講堂

- (1) 総会議事など
令和6年度事業・決算報告 令和7年度事業計画(案)・予算(案)
- (2) 地区研修会
 - ①小布施町社会教育委員の皆さんの発表「小布施町社会教育委員の取組」
 - ②少人数グループでの情報交換会

3 長野県社会教育研究大会 9月8日(月) 於 長野県総合教育センター

参加者 15市町村60名参加申し込み

- (1) 県表彰 北信地区は3名が受賞
 - 福田 典子さん 長野市
 - 二本松 三雄さん 信濃町
 - 加藤 真実さん 野沢温泉村
- (2) 講演会
演題 「いのちと対話する歴史 ～共に学ぶ学校教育・社会教育を目指して～」
講師 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校教諭 小川 幸司さん
- (3) 全体会
本年度より全体会発表なし
- (4) 分科会
 - 立科町社会教育委員連絡協議会(佐久地区・上小地区社会教育委員連絡協議会)
「子供の育ちを支える社会教育委員の役割」 北信地区より 9名参加
 - 大鹿村社会教育委員連絡協議会(飯伊地区社会教育委員連絡協議会)
「地域をつなぐ大鹿中学校歌舞伎」 北信地区より 6名参加
 - 大桑村社会教育委員連絡協議会(中信地区社会教育委員連絡協議会)
「人と社会をつなぐ大桑村の社会教育」 北信地区より 13名参加
 - 飯綱町社会教育委員連絡協議会(北信地区社会教育委員連絡協議会)
「地域の子供を地域で育てる」を目指して 発表者:飯綱町社会教育委員 小林悦夫さん
北信地区より 26名参加

4 地域ぐるみの共育フォーラム 兼 北信地区社会教育研究大会 11月1日(土)

於 中野市豊田文化センター92名参加

(1) 講演会 「音楽でつなぐ絆

～ 世代をこえて結ぶ「声」の力 ～

清泉大学短期大学部 こども学科 教授 山崎 浩さん

(2) 分科会

① 「学びの場から広げる人とのつながり

～社会教育士が取り組む地域での学び～

社会教育士 舟越 暁さん

② 「大学生は子どもたちの居場所をどのようにつくるのか

～大学生チームの挑戦～

長野大学 3年 ちゅろすのみなさん

③ 「笑顔が繋ぐ多世代交流

～地域に対する愛着と誇りを育み地域活動の活性化を目指す～

木島平村社会教育委員 滝沢 良一さん

5 CS に関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会 社会教育委員理事研修会

5月27日(火) 於 県立長野図書館

(1) 「長野県におけるコミュニティスクール位置づけと取組」

長野県教育委員会事務局生涯学習課 油井 玲子さん

(2) 「社会教育事業としての地域学校協働活動とその効果的な展開のためのCSとの一体的推進」

文部科学省 CS マイスター 猿渡 智衛さん

6 北信地区社会教育委員連絡協議会 理事会(3回)

(1) 4月 16日(水) 事業報告・事業計画・予算案、県社会教育研究大会

於 長野合庁

北信地区社教委連総会・地区研修会開催について

正副会長選出 情報交換会 地域ぐるみの共育フォーラム

(2) 9月 3日(水) 北信社教委連総会・地区研修会の反省

於 野沢温泉村

県社会教育研究大会 地域ぐるみの共育フォーラム分担

活動情報誌の発行計画

高野辰之 おぼろ月夜の館 視察研修など 情報交換会

(3) 1月 30日(金) 年間活動の反省 次年度の計画 事業・決算報告

於 オンライン

地域ぐるみの共育フォーラム反省

7 正副会長会(2回)

(1) 7月14日(月) 北信教育事務所 長野合同庁舎 第2回理事会に向けた協議

(2) 12月19日(金) 北信教育事務所 長野合同庁舎 第3回理事会に向けた協議

8 活動情報誌第39集の発行(3月)

9 その他

北信地区社会教育委員連絡協議会 会計 及び 会計監査

Ⅱ 研修会の記録

Ⅰ 北信地区社会教育委員連絡協議会総会及び地区研修会感想まとめ

地区研修会Ⅰ

『小布施町社会教育委員の活動』から学んだこと、今後いかしたいこと

- どの市町村でも社会教育委員になって思うことは「どんな活動をするべきなのだろう」という戸惑いだと思います。小布施町さんでは「子ども教室」それも様々な活動も位置付けており、関わる活動がある。そこが強みだと思いました。これからの活動の拡がり、深まりに大いに期待しています。
- それぞれの社会教育委員の皆さんが、それぞれ独自の活動をしていて素晴らしいと思いました。
- 観光客の為ではなく、町民のための町、行事、文化、各委員さんがしっかりした活動をしている。小布施の魅力再発見のようなものが野沢ではできると思う。
- 歴史、町の施設を使用した子ども教室、学びを、地域、地元の人々からそれぞれの立場で、活動していて、凄いと思いました。
- 活動の中で通学合宿をやっていて凄い事だと思った。公民館との連携が出来ているので、活動の場が確立していると感じました。
- 町にある文化施設は、観光客のためのものだけではない、町民のためのものでもある。町にあるものを活用し、社会教育につなげる企画や発想は参考になった。地元の魅力とはなんだろう、自分はそれを語ることはできないが、子供達が地元の魅力をもって、ここで暮らしていきたいと思えるような地域にしたいと思った。
- 小布施子供教室、通学合宿は非常に良い試みであり、実体験を通じて、学べることは大変有意義なことであると思いました。
- 社会教育委員としての活動について色々発表がありましたが、何か参考にしたかった。
- 観光地で活気があり、社会教育委員の活動ができていて素晴らしいと思いました。
- 社会教育に関わる活動を活発にされていることがわかりました。
- 観光施設、町民のための文化施設をいかした活動、子供教室への取組み、地域の方の関わり、イベントに対する主体的な参加、図書を読み聞かせ、子供の居場所づくり、公民館講座サークル化ける、ガイド交流、小布施町皆さんのまとまりを感じるとても素晴らしい研修会でした。
- 我が町に誇りをもって多くの活動を行うことは、プライドの醸成につながっている。
- 社会教育委員の方々ができることを広げて、社会教育に関わっていかれることがすばらしいと思いました。
- 社会教育委員さんの活動が発展して、地域貢献につながっている所、なるほどと思いました。
- 社教委同士のつながりがすばらしいと思いました。
- 委員の方が職をいかして活動に参加していてすばらしいな。社会教育委員＝公民館講座、個々の特性が発揮でき

る＝町にも貢献、町民にも活気、意欲が増長されると感じました。活動も豊富で意欲も持って活動されていて凄いなあと感じました。

○これからもこのような活動をつづけていきたいと思う。

○総合文化祭は飯綱町でも実施したく参考になりました。

○小布施町の社会教育活動の素晴らしさに感心しました。信濃町も実状に合わせて小布施町の様にしたいと思いました。

○活気ある皆さんの姿に感動でした。本当に自分の町がお好きなんだと羨ましいと思いました。

○小布施子供教室は色々なことをされていて驚きました。米作りからキャンプ等すばらしいです。

小布施まちあるきガイド、町のことを知り、町のことを伝える、本当に地元のことを知りたいと、自分の地元についても勉強したいと思いました。習字教室は自分も習字をやっているのが興味深いと思いました。勉強をつづけることで、底力がつくと思いました。

○少子高齢化の中、社会教育委員を中心に地域の方達が活動していることは素晴らしい。公民館はもとより学校図書館との連携、スポーツ、登山など、公民館、スポーツ講座を参考とさせて頂きたい。社会教育委員それぞれが発表できる活動がたくさんある事に感激しました。

○社会教育委員さんの背景をわかりやすく発表していただいたので、活動の様子も理解し易かったです。どのようにして、その活動が始まったのか、活動していて、どう考え、どの狙いで、課題と展望を伝える事は大切と学び、もし自分が発表する時はこのような点に注意したいと思った。公民館講座が充実しているのは委員も実践しているから凄いと学びになりました。

○みんなで楽しい町づくりに努力されている様子が伝わってきました。子供食堂のことなど分科会で聞いて参考になりました。

○改めて町歩きや町内の文化施設を巡ってみたいと思う。

○様々な活動をされていてすばらしいと思いました。

○皆さんすばらしい活動をされていて、これからも皆さんとコミュニケーションを取りながら共に活動していきたいと思いました。

○それぞれの委員さんがご自分の得意分野で町の学びに貢献されている様子がすばらしく、大変参考になりました。社会教育委員さんご自身がご自分の活動を楽しんでおられているのがすばらしいと思いました。

ご自分のお仕事为社会教育委員活動につながっている所に憧れました。

○社会教育委員の活動のやり方が参考になった。各方面からの活動がとても魅力的な内容でした。

○社会教育委員の皆さんがそれぞれの特性をいかして、恵まれた環境を活用して活動されていてすばらしいと感じました。自分がどんなことができるのかを考え行動に移したいと思います。

○委員それぞれの皆さんの日頃の活動に触れ、社会教育委員としての自覚が芽ばえた。

○委員皆さんの活動がわかった。

○それぞれのお立場で活発な活動をされていることがわかった。当市では委員がお互いに活動の発表をすることでないので、話し合う場をつくることも必要だと思いました。

○委員さんそれぞれの活動がわかった。熱心に活動されていて驚いた。

○小布施町と飯山市では、行っていることはほとんど同じですが、市民参加がとても少ないかと思いました。観光の為ではなく、市民の為の物にするにはどうしたら良いのかと考えさせられました。

○文化施設が点在しているということで、町外の方との交流が多い町。ガイドコンシェルジュの養成により地元の方とのコミュニケーションが取れる。

○様々な施設があり、それぞれの特徴を活かしていると思った。

自分の町でも地域の活性化につなげたいと思う。

○様々な条件が揃っている小布施町ではありがたい地域になっていることを知らされました。

○総合文化祭、創作活動している作品があり素晴らしいと思った。体育館を会場にして全て鑑賞できることが素晴らしいと思った。子供食堂は登録制が参考になった。

○地域での活動に自信をもって、肯定的に動いている所は大変素晴らしいと思う。

観光客向けの施設を社会教育にいかしている。長野県内の活動もヒントになる。社会教育委員が得意分野の中で、活発に様々な活動をしていて具体例が紹介されていて、他市町村での活動への多くのヒントになる。

○小布施町の社会教育委員さんの活動状況や内容を知ることができた。委員それぞれに色々な方面で活動している。

文化施設が観光客の為だけにあるのではなく、地元町民の為に利用することが大切だと感じた。

○委員の活動を具体的に知ることができて良かった。

社会教育の団体がたくさんあるなど恵まれた環境の中で、小布施町の良さを広げて欲しいです。

○色々な場面で関わることの大切さを思いました。

地区研修会Ⅱ 情報交換会から学んだこと、今後いかしたいこと

○小布施町の社会教育委員さんの発表を聞いて深めることができた。

社会教育委員の役割はネットワークづくりである。

○人口が少なくスポーツ、文化クラブの選択肢が少ない。

○市町村事務局の悩みや課題を共有できて良かったです。広報誌などを通して、社会教育委員の紹介などをしたいと思いました。

○公民館事業等と連携・協働で活動してければと思いました。

○通学合宿を始めた地域があって感心しました。公民館活動と社会教育委員の活動の違いがわからない。

○地域によって活動の違いがある。社会教育委員独自活動はどうしたらと思う。公民館活動との関係も曖昧である。

情報共有できたことは良かった。

○社会教育委員が中心となって講座を開催したり、積極的な活動が見受けられたりして参考になった。

- これまで以上に何かを頑張っ活動したい。
- 他地区の活動を伺うことができて勉強になりました。
- 他市さんの様子がわかって良かったです。
- 事務局同士の情報交換ができてとても参考になりました。
- 他市町村の現状が聞けて大変参考になりました。
 テーマを決めて少しでもやってみることが大切。次年度の計画に設定したいと思う。
- 同じ社会教育委員であっても選出する仕方が違ったり、活動内容がそれぞれであったりして、興味深いと思った。
 地域ごとの課題もあり、取り組みもうかがえて大変勉強になった。
- どの事務局も問題があり苦労していることがわかりました。社会教育は広いのでテーマを決めてやることも大切
 だと思いました。
- 各地区様々な活動内容を学べて参考になりました。社会教育委員になった理由も様々で委員になってもらうため
 には、ただ見つけるだけではなく、組織からの推薦も必要だと個人的には思いました。
- ボランティアで行事や活動に参加している方もいらっやって頭が下がります。通学合宿をやっている市町村も
 多いことも凄いと思いました。
- 地域の特性を基に活動されている方が多く、自分の地域を改めて見直したいと思った。
- 通学合宿を中心に話しましたが、子供達にとって貴重な体験であり具体的に参考になりました。
- 社会教育委員と公民館との関係性について意見を出し市町村の立場からお話しすることができて有意義でした。
- 皆さん同じように迷いながら活動されていてホッとしました。
- 小布施町の取り組みなどを参考に組み組んでいきたいと思いました。
- 各事務局苦労している事がわかり、これから情報共有しながら事業を行っていききたいと思います。
- 地域ごとの活動の様子が知れました。坂城町の部活の地域移行のお話を参考にしたいと思いました。
- つながりネットワークづくり、次の社会教育委員探しなどご苦労されている様子を共有させて頂きました。まず
 は自分がネットワークを広げる努力をしたいと思います。
- 各市町村の情報が聞けてありがたかったです。
- 悩みを言い合えたり、素敵な活動をたくさんされていたりして参考になりました。野沢温泉村さん、研修に宿泊
 で行かれたそうで、ざっくばらんに話せる。
- 他市町村の通学合宿についてたくさん学ぶことができました。
 参考にはしますが、絵に描いたもちにならないように努力したいと思います。
- 各地区の委員の声が聞けて良かった。自分がやっていることが社会教育なので委員になって欲しいと言われた。
 どの発言も納得することができたと思いました。
- 他市町村がやっていることを全部できるわけではない。
 自分の村でやれそうなことを村の社会教育委員同士で話し合いたい。

- それぞれ皆さんの活動状況を聞くことができ、これからの参考にしたいと思います。
- グループの方々の活動を聞くことができたので良かったと思います。
- 市町村事務局のお話を聞くことができて参考になりました。
- みなさんが社会教育委員として不安をもっているということを知りました。
何をしたら？という不安です。気持ちは何かしたい、役に立ちたいという思いは大きくありました。
地区でやることはむずかしいので、社会教育委員の皆でやったら満足感につながっていくと思いました。
- どの市町村も社会教育活動の方向性や社会教育委員の継続については困っていた印象です。
社会教育活動については小さなことでもやっていきたいと思います。
- 個人活動で素晴らしいことをしている方がいました。社会教育委員としての活動につなげたいと思いました。
- 個人での活動が必要です。
- 団体との関わり方。
通学合宿、高校生とどのように関係をもっていくのかを考えたい。
- 参加者の声を聞くことができた。お互いの疑問や困り事について少しヒントとなるような話ができたと思います。
- 他地区との交流ができた。コミュニケーション能力が社会教育委員には大切であると思う。
- 各地区委員の情報を聞いて参考になった。社会教育委員の立場で更に努力したいと思う。
- 他地区の活動がどのように実施されているのかが確認できて有意義であった。

2 CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会感想まとめ

参加者23名 アンケート回収19名

評価 とても良い→11名 良い→7名 普通→1名 やや不満→0名 不満→0名

講演で学んだこと

- 最も印象的だったことは『一般行政』への理解という点です。どうしても教育委員会内や学校と教委での共有に終始していたと感じています。今後町部局、特に企画振興や健康福祉とCSの仕組と取組を共有していきたいと思います。
- 自分の周囲で、CSに関しての具体的な動きがありそうな現状なので、それに向けての多くのヒントがあったと思う。特に困った時のテーマは『防災』はポイントだと思いました。
- 願う姿を振り返りつつ活動する大事さにハッとさせられました。
コミュニティスクールの現状とこれからについて知ることができありがたかったです。
- 地域と学校のつながりの大切さを思いました。
- 前年もうかがいましたが、だいぶ前より中身が‘なっとく’できてきました。まだ、考える事がたくさんありそうでおもしろかったです。
- 人との出会いを大切にしたいと思います。
- 昨年学んだことが、もう少し進めることができたと感じました。防災、考えていきたいです。
- 講演を聞いて、それぞれの実情にあった形で、無理なくコミュニティスクールを行えば良いとわかりました。学校にとっても、地域に取ってもWIN-WINの関係にならなければ持続可能ではないことが印象に残った。
- 地域づくりを学校を通して行うということ、多くの方を巻き込んでいきたいと思いました。
- CSの「もやっ」としていたものがクリアになりました。協働しなきゃ、さて何ができる、何をする、少しワクワク感があります。防災、ヒントを頂きました。
- 協働活動をもう少し学びたいと思いました。
- 本年度もとても腹に落とせました。地域で何ができるのか考えています。
- 地域と学校が協働する地域づくりの視点でCSの充実を考えていく必要があると改めて感じた。
CSの本質を改めて考える機会となった。
- CSの目的や地域、学校とのつながり方など、疑問に思っていたことについてお話が聞けた。
学校だけでなく、地域のあり方に関しても考えることができた。
- 地域と学校のあり方、活動につなげていきたいです。
- CSの事はわからなかったが理解できた。

○講師の話がわかりやすく、やる気をあげてもらえて嬉しかった。

○社会教育の役割を改めて見つめ直そうと思いました。

情報交換から学んだこと

○会議では常に結論を導く事が目的と思っていたが、会議においてみんなとコミュニケーションを取る事自体が重要であると気付いた。急いで結果を求めない事も大切と思った。

○様々な取組を組合わせて行うことがなぜ大切になるかグループワークを通して少しわかりました。活動をつづける、活動を工夫したりつないだりがこれからいかしたい点です。

○現場の声をもっと聞く耳をもち、行動に移すこと。

○考え方を具体的に示して頂けてとてもよくわかりました。楽しく参加できました。

○ワークおもしろかったです。利用したいと思います。

○まずはWSですね。中から外へ、外から中へ。

○CSのメンバーになっているので、会議を見直したいと思います。

○熟議の仕方、魅力を知り、つながり、協働、参画など、学校づくり、地域づくりで大切にしたいことを考えることができました。

○様々なお話ができた。

○知らない他県の事例を教えて頂き参考になった。

○皆さんが熱心に参加されていると思いました。

その他

○これ程、充実した研修会は久しぶりです。もっとたくさんの方に参加してもらいたいですね。

○もっと研修を長くしてもらいたいです。早いテンポで中々記録できませんでした。

○市町村の担当者として、他市町村の方とつながる機会を頂きました。

3 地域ぐるみの共育フォーラム 兼 北信地区社会教育研究大会感想まとめ

学校教育関係者・社会教育関係者・福祉関係者・保護者・地域の人々が集い、地域で豊かにたくましく生きる子どもを育てるために、講演会を通し、地域ぐるみで共に育ち、共に育てることについて学び合いました。分科会を通して意見交換を行うことができ、大変有意義なフォーラムとなりました。

令和7年11月1日 中野市豊田文化センター

参加者；92名

アンケート

大変良い→36名 良い→29名 普通→2名 やや不満→1名 不満→0名

講演

○演題 「音楽でつなぐ絆 ～世代をこえて結ぶ「声」の力～」

○講師 清泉大学短期大学部こども学科 教授 山崎 浩 氏

- 自分のケアを大切に考え、まわりの人を考えて行動したいと思います。
- 歌うことのメリットを知ることができました。自分の諸活動の中で、活かしていきたいと思います。そのためにも今後、社会教育委員として自分自身もっと歌うことに努めていかなければならないと思います。
- 歌でつながる地域活動、世代交流は素晴らしい。社会教育の理想的な手段の一つだと教えてもらった。山崎さんのような素晴らしい指導者がいてこそだと思います。そう考えると、どの地域でもできることではないとも思いました。
- 音楽の良さを感じました。
- 音楽は小さい時から遊びを通して関わることの大切さ、歌は世代を越えた、おすびつきがあることを考えさせていただきました。
- リラックスして話や歌を聴かせてもらいました。歌のもつ力は凄いですね。可能性は無限大だと思います。
- 山崎先生が他人をケアすることは自分が充実していることとおっしゃっていて、その通りだなと思いました。本番のつもりで練習することの大切さも考えさせられました。
- 講演会で音楽まで聴くことができてありがたかったです。

- 音楽は人をケアするために意義があるものなので、子供たちを共育する場で音楽を活用していきたいと思います。
- 講義を通して、歌のもつ凄さを改めて感じました。「自分の感動、リラックスが他人にも優しくなれる。その素材の1つが歌である。」本当にそうだなと思いました。
- 自分がハッピーになると周りもハッピーになる本当にその通りだなと思いました。歌うことのすばらしさを改めて教えて頂きました。歌ってみたいと思います。腹式呼吸すばらしいですね。
- 現代社会、地域における音楽のすばらしさを改めて認識しました。
- 講演を聴いて「うた」のもつ「力」のすごさを感じました。「うた」は子供や高齢者をつなぐ手段として、社会教育の場で活用していくことが可能だと改めて思いました。楽しい講演ありがとうございました。
- 以前、地元のPTA講演会をお聴きした時とは全く違うお話だったので、終始興味深く講演を聴かせて頂きました。先生の講演を聴いて、うたのすばらしさを教えて頂き、たくさん勉強になりました。
- プロの演奏、歌を聴けて、リラックスできました。現在の生活にとっても役に立つ内容でした。楽しくなければ続かない、練習が本番、世代を越えたつながり、呼吸など、心と体の健康、たくさん勉強することができました。
- 音楽の良い点を説明されて参考になりました。
- 歌う事が多年齢の交流につながる事を改めて意識した。何年も歌っていなくてもメロディーを聴くと思い出して歌う事ができる音楽のすばらしさに触れることができた。
- 「拍手をもらおうと自尊感情が高まる。ただし、拍手をもらうためには、本当に頑張らなければならない」最近、音楽会をした子供達は多くの方に会場中に響くほどの拍手を頂いていた。行事の見直しや縮減が求められる中で、子供達の成長の場を確保していく必要性を感じた。
- 歌はとても大事なものだと思う。毎日歌をうたいたいと思いました。高山村でも講演して欲しいと思いました。
- 忙しい日々の生活において、忘れていた音楽を思い出し、講演を楽しみました。メッセージの多い曲がたくさんあり素直に感受性に届きました。山崎さんは素直で、ロマンチストですね。音楽歌は世代を越えられるとつくづく思いました。
- 自分が感動しながら生きていけることの大切さとすばらしさ。
自分も合唱を何年も地域でやっていて、山崎先生にご指導頂いています。毎回、練習で感

動を頂いていて、何てハッピーなんだと再認識しました。

- 講演大変良かったです。歌のもつ力について改めて教えられました。「そのまま」の歌を聴いて、思わず涙が出ました。そんな親でありたいと思いました。
- 先生の歌とピアノとオカリナ、とてもすばらしかったです。映像の中で、どの年代の方も歌を楽しんでいることがわかりました。改めて、歌は年代を越えるものだと思いました。活動の中で、歌をうたっていきたいと思いました。
- 「うた」が多世代交流に最適な手段ということを学びました。子育てサークルを運営しているので、今後、子供とその家族で、合唱などもやってみたいと思いました。
- 世代を越えて一緒にやる手段としての“歌”はとてもすばらしいですね。評価されない、全員が楽しめることが大切だと感じました。
- 講演会が勉強になり良かったです。
- 介護の仕事をしている中で、ナツメロ♪は大変盛り上がりました。自分のナツメロは？と思いながら、聴いていた。その時代の歌を口ずさめるように練習したいと思います。
- 相手を楽しませることによって、同時に、自分も楽しむという気持ちがとても大切何だと思いました。たくさんの音楽を聞かせていただき、あつという間のご講演でした。
- 地域、世代間など、他とつながる手段としての音楽の在り方について、山崎先生の実践されていることを通して、お話を理解することができました。
- 歌は生涯に亘って楽しめ、過去の記憶を呼び起こすツールになることを勉強しました。
- 芸術の目的を考え直しました。世代を越えてつながり合うことができる音楽、歌うことに、可能性を感じました。歌うということの大切さ感じました。教育や人権について内容も大変すばらしかったです。
- 山崎先生の音楽に対する考え方に感動しました。自分がハッピーだと優しくなれる、みんなに伝えたいと思いました。
- 自分のケアを大切に考え、周りの方をハッピーにできるようにしたいと思いました。
- 心身に訴える素材として、音楽や歌は大人も子供もみんな一緒に楽しむことができ、世代を越えてつながっていくことができるのだなと改めて思いました。
先生の歌と演奏もすばらしかったです。
- 『音楽はどんなことに必要とされているのか？』という問いをもった山崎先生の生き方に感動しました。自分が幸せを感じると優しくなれる。それが周囲に伝わり、みんなが幸せになれる。学校職員に伝えたいと思いました。
- 山崎先生の講演の中で、歌は世代を越えて一緒にできるというお話を聴いてなるほどと思い

ました。スポーツであれば、身体の発達に差があるため、世代を越えてのスポーツはむしろ楽しい所はありますが、歌であれば、年齢関係なく楽しめるため活動に組んでいきたいと思えます。

○音楽の年代を越えた大切さが伝わってきました。

自分は陸上競技に関わっていますが、音楽活動にも参加したいと思えます。

○自分を解放することは悪いことではないのだと思えました。立場の責任を感じすぎる日々少し肩の力を抜いてお手伝いできればと感じられるようになりました。

○自分にゆとりがあり、リラックスしていると人も優しく、周りもハッピーになるということ、まずは自分がハッピーになることが大切であることを学びました。楽しい活動や心を動かす活動は夢中にさせるということを勉強しました。

○心が動く、ゆとりが出来る、自分も周りもハッピーになる、音楽の力は凄いと思えました。大型バスを歌っている園児の姿が印象的でとても心打たれました。

○音楽を通じて、心を動かすとはどういうものなのかと思えました。リラックスするためのものだけでなく、呼吸、刺激、共有、共感、コミュニケーションなど幅広く学び合える事を理解させて頂きました。言葉だけではなく、音楽、歌を通じた活動をしたいと思えます。

○自分の町の子育て異年齢交流などにも歌の力を取り入れていくことが出来ると良いのではと思えました。心豊かな人生を送る手段として「歌」があることがわかりました。

○山崎先生の「音楽でつなぐきずな」自分自身がリラックスすることが周りもハッピーにすることは考えておきたい内容でした。改めて、学び直し、心に留めて、活動していこうと思えました。

○素晴らしい先生の講演会とコンサートを聴いて感動しております。他の企画で改めてお聴きしたいと強く思いました。

○まずは自分がハッピーになる事なるほどと思えました。

○音楽に接する機会ができたので、つづけていきたいと思えます。

○歌うことにより、体の健康状態が保たれ、改善されると学びました。今后、自分の中で聴くことだけでなく、歌うことに少しでも挑戦したいです。

○音楽の力を改めて感じました。心を動かすもの、人とつながるもの、メッセージを伝える手段、歌は技術がいらなく、続けていくことで上達していくもの、子供からお年寄りまでが、つながることができる手軽なツールです。分科会の多世代交流につながると思いました。

○音楽を通して、心身共に健康でいたいと思えました。

山崎先生は、ピアノも歌も上手で、心に響きました。

- 生の感情が伝わる。ライブ、コンサートで生の声を聴くと感動して涙が出る。感情が伝わってくるんだな!!泣けてくるのは普通の事なんだと思いました。この手段は、とても大事であると思いました!!この手段を使わせて頂こうかと思います。素晴らしい演奏ありがとうございました。
- 音楽の多様な役割と楽しさを再実感しました。
- 私もささやかな「歌う会」を続けていますが、先生のお話でもうひと頑張りやってみようと思いました。音楽はすばらしいものだと思います。
- 音楽を通しての講演は初めてだったのでとても参考になった。
- 自分がHappy、まわりもHappy、まわりがHappy、自分もHappy、音楽や歌は共通のツール地域で気負わず自分にできる事で交流活動をしていきたい。
- 自分が不和の原因になっている事があるという話題に、ドキッとしました。ゆとりを持てるように、工夫したいと思いました。
- 異年齢の人同士を繋ぐ音楽の持つ力の凄さ、可能性を感じるすばらしいご講演でした。来た甲斐がありました。幸せを提供する側が幸せであること、音楽などの手段でリラックスし余裕のある自分であることの大切さを学びました。ありがとうございました。
- 音楽は年齢に関係なく、共有できるアイテムである。
自分の心が動く、感動することで、リラックスし余裕でき、周りのみんなを幸せにできる。
- 自分がコーラスやピアノを、「大人も楽しみたい、そして子どもたちに大人の楽しお姿を見せたい」という思いでやっており、山崎先生に背中を押して頂いた気がします。さらに「多世代での活動」を広げていきます。
- 音楽のもつ可能性についてあらためて考えました。手段と目的をはき違えないという指摘は、授業においても、行事においても、何についても当てはまることだと思いました。私の担当している学校統合についても、統合学校を整備することを目的にせず、そこで何をするかを対話を通して十分に深めていきたいと思いました。山崎先生にご講演いただきとてもうれしく、ぜひまたお話や演奏をお聞きしたいと思いました。月末のやまつかあそび2も伺いますね。
- 詩人たちの詩は人それぞれに解釈があるんだなーと改めて考えさせられた。
これから出会える人たちと「喜び」を共有したい。
- 自分の地域でも、講演していただきたいと思いました。
- 小川村でも、公民館には、文化協会の所属団体でコーラスグループ、アコースティックギター、ウクレレ、和太鼓、小川音頭保存会、子供向けヒップホップダンスなど、音楽に関する団体もある。しかし、中学生の吹奏楽と交流している様子は知らないなので、まず現状を調べてみよう

と思いました。音楽を通じた多世代交流ができるよう、公民館で集えたらいいかなと思いました。

○音楽の中でも「うた」は、年代、世代を超えて「同じ土俵」で楽しめるということ。

それは人を感動させ、みんながハッピーになるということ。

そして人権教育にもつながること。

たくさん勉強させて頂きました。

分科会①「学びの場から広げる人とのつながり

～社会教育士が取り組む地域での学び～

社会教育士 舟越 暁 さん

○対話の場づくりを学校関係者以外の人達を巻き込んでいくことで、学校の役割と地域の役割を明確にすることができ、連携を推進できると感じた。舟越先生の行動力に驚かされました。職場の悩み自己の課題を解決するために学びの場を求める姿勢は本校の職員にも伝えたい。

○学校と地域がつながるための大きなヒントを頂いた。併せて2つの勇気のお話も大変参考になりました。大いに参考にしたいです。

○PDCAならぬdCAPはやってみたいと思いました。ただ、新しいことを始める時は、「取り敢えずやる」から始まると思いますが、何もしないよりは、結果どうこうではなく動く必要はあるのかなと思いました。

○現場の先生の悩み課題などが地域の方々に伝えられる方策がとても参考になった。社会教育委員として学校とのつながりをもってさらに先生方の話を聞くことができるようにしたい。

○学校と地域をつなぐ事は社会教育なのかな。

○先生の強い精神力がつながっていると思いました。多様な人達が向き合うことが、大切であると学ばせて頂きました。

○まずはDOなのかなと思います。行動から、それに関わる人とつながるチャンスが存在してくると思います。そして、それは、身近な所から、小さな所からのつながりを大事にしたいと思います。

○むずかしいが意外と簡単なのかなと思った。

○PDCAサイクル、dCAPが印象に残りました。

○つながる勇気が必要だと思いました。

○舟越さんの「学び合いの場」については知らなかったなので、わかりやすい説明で理解できました。話の中から「PDCAサイクルをちょっと変えて小さく始めてみるdCAPで初めてみた事」や「自分のライフワークとしてやっている感じ」など本人の気持ちなども、ワクワクしながら、

行っている感じが伝わってきて、希望を見た気がして勉強になりました。

- 学校も地域とのつながりを求めている。地域の方々から学ぶこともあり、地域の方も学校とつながりの中で、共に学び、共に育つ地域を作っていけたらと思います。

「大学生は子どもたちの居場所をどのようにつくるのか

～大学生チームの挑戦～

長野大学3年 ちゅろす の みなさん

- 大学生の活躍、頑張っていて欲しいと思います。思い通り活動できる事ができる様に望みます。
- 大学生とお話ができ嬉しかったです。大学生の活動について長野県でサポートして欲しいなと思いました。
- チラシ、遊び、ゲームのアイデアは凄い。大学生、若者が社会教育に参加してくれていることがとても嬉しい。若い人にしかできないことが多い。
- 大学生の活動として、素晴らしいと感じます。やりたいことを考え実行する力応援したい。
- 大学生の素晴らしい活動、情熱に感動しました。活動がつづく様に望んでいます。
- 長野大学生の活動をお聴きして、課題があることがわかった。話し合いの中で、子供食堂や社協とコラボするなど多くのアイデアも出て参考になりました。
- 大学生の方が地域の子供の居場所とつくる活動があるのに驚きました。地域では、公的なものが多いので年の近い方が指導してゲームという方法で楽しませてくれることがありがたいと思った。
- 大学生の活動、発表すばらしかったです。子供の居場所、つながり、どの地域も大切なもの、これから更に必要になるのかなと思います。若い方に活躍して欲しいと思います。
- 大学生の『子供や地域との関わり』をもつための努力がとても貴重だと思いました。それがつづいていくように希望したいです。
- 志のある大学生が取り組んできた、「遊びと学びの融合」の試みを、このまま終わりにしてしまふのではもったいないなと思いました。長野県総合教育センターなどで、先生方向けの研修などできればと思います。
- 大学生の活動について聴く事ができた。大学生と児童、家庭、地域とのつながりをつくる活動が困難をもっている児童の支えになっており是非、活動の継続を望むが、当事者の大学生自身つづけていくことの困難さを感じているので、何とかなればと思う。
- 大変素晴らしい活動だと思います。そこに通う子供や保護者に変化の機会を与えていることに感銘を受けました。ぜひ、後輩に引きつぎ、これからも活動がつづいていけるようにしてほしいと思います。
- 大学生に頑張っていて欲しい。
- ちゅろすの活動をつづけていけるようにすることが大きな課題であると全体で認識すること

ができた。そこへのアドバイスやつながりを広めつつある。何とか活動を継続していけるようにして欲しいと思います。

- 長野大学の学生さんたちか社会の課題に対して探究的に学びを深め実践されていることを知り大変刺激を受けました。居場所を求めている子どもたちにとって必要なことを考え実践されていること自体に大きな価値があります。それを伝えました。また取り組みの成果や課題について参加者同士で共有できたことが今日参加して一番良かったと思いました。
- 学校教育と社会教育の融合がこれからの時代に必要だと思いました。

「笑顔が繋ぐ多世代交流

～地域に対する愛着と誇りを育み地域活動の活性化を目指す～

木島平村社会教育委員 滝沢 良一 さん

- 発表の滝沢さんのお話飾り気がなく率直ですばらしいと思いました。やってこられたこと意味のあるすばらしい活動だと思いました。
- 多世代交流の大切さが伝わってきました。個人の力が発揮されなくなった場合には、どう運営されていくのかが疑問に思いました。
- 『自己満足』大事だなと思いました。
- リーダーシップがある人がいると活動は盛んになるが、その方がお辞めになった場合に活動がつづいていかなくなってしまうと思います。持続可能な活動を探していきたいと思います。
- 初めて社会教育委員さんとお話できてとても貴重な機会となりました。
- 私の住んでいる町は大き過ぎず狭すぎず、地区で行事をやっている。地区が先細りしていくと思われる中でこの先地区の行事をまとめていくことも考えないといけない。子供大人が楽しいと思える街づくりが大切であると思った。
- 小学校も日々大変お世話になっています。みんなが楽しみながら、成果を出したいと思います。
- 滝沢さんのようなリーダーシップをとれる地域の方がどれだけ大切かが感じられると共に、持続可能なつながりをどう構築していくのか互恵的な関係であることを、学校現場も理解していく必要があると改めて感じました。
- 大変力のあるご発表でした。ここまで責任をもって活動することは、皆の勇気になったと思います。大変、前向きな考え方でした。
- 各方面の方を参考にする。
- 地域の老人クラブや地域おこし協力隊など活動団体と、保育園、小中校との連携が取れて、それぞれの活動が活かされているなど思いました。地域連携コーディネーターの位置づけが大変参考になりました。
- 核となる人材が最重要である。あて職で委嘱するではなく、やる気のある人材を選出する方

向にしたい。

- 木島平村の皆様で連携した活動ができており、活発な活動ができていてすごいと思いました。
- 学校ではできない野外活動を色々考えてやってもらっていて大変参考になりました。自分達の町でもやっていきたいと思いました。
- 地域連携コーディネーターの存在の大きさを痛感しています。リーダーの重要性、その地に根差し、地域の人々との交流が密な人材、高齢者で活動に参加できずにいて不安に思います。
- 地域の特色を活かした多世代交流を知ることができた。自分も楽しんで活動していくことの大切さを教えて頂いた。
- 特に滝沢コーディネーターの発信力がすばらしいと感じました。地域とのつながりが感心しました。
- 学校で外部の講師を招き、子供達へいろんな活動教育をしている。その分野を広げられれば、広げたいと思います。
- 大人自らが楽しんで活動することが子供達に伝わるという木島平村のコーディネーターさんの活動力に驚きました。
- 社会教育委員がお互いに尊重されていることが伝わってきました。失敗を恐れず、チャレンジしないといけないですね。
- もっと活動しなければと考えさせられました。
- 人と人をつなぐ中心となる人が大切だと思いました。
- 何らかの形で地域の人達と交わってやりたいと思います。
- 自分にできること無理のない所で楽しく行っていきたいと思う。
- 多世代交流はみんながWIN-WINの関係になれるものです。これからも社会教育委員として、多世代交流に関わっていきたいと思います。
- 地域全体で盛り上げて、協力し合い、ずっとつづけていきたいと思います。
- 地域連携コーディネーターを中心に、社教委が参加して色々な交流を通して、多世代交流につなげていくすばらしいと思います。
- 地域連携のコーディネーター、滝沢さんのような活動が、社会教育委員の大きな任務になるのではと思いました。
- 木島平村地域連携コーディネーター滝沢さんの活躍、社会教育委員さんの活動、とてもすばらしいと思います。社会教育委員1年生として勉強になりました。
- 多世代交流できそうな事例をたくさんご紹介頂きまして嬉しく思いました。
- 第3分科に参加しました。つなぐことは互いの意思疎通を図らなくては難しい。現場重視。地域コーディネーターさん社会教育委員さんの企画、行動力に脱帽しました。参加者や対象者からの声や希望が反映され主体的に開催をしていく地域になるのが理想と思います。それが、むずかしいと思います。

- アフタースクールに地域の方が児童に対する体験学習を実施する活動が、印象的でした。
- 一般人はどんなに良いアイデア能力を持っていても学校の先生には勝てないと思った。
もっと求心力を学びたいと思います。
- 地域で盛り上げたいと思いました。

地域で豊かでたくましい子供を育てるための取組など

- 社会教育委員が主導する活動は通学合宿があります。他は公民館活動が主体となっています。地域の大人に活動参加してもらう手段、意識。中々課題が多いです。通学合宿をつづけ、それらの意識も育っていければと思います。
- 子ども教室、通学合宿、わんぱく教室。
- 子供が考えていることを地域の方と一緒にいうという小さな取り組みなどつづけていきたいと思っています。
- 私は子供劇場をつづけています。子供達の自治集団を目指す子供原始村をやっています。
- 放課後スポーツクラブをボランティアの方がやっています。地域柄、スキーをやる子供が多いのですが、スキー以外のスポーツをやる環境が少ないのでありがたい取組です。
- 「わくわく村」という地域の方、小学生、保護者が参加する講座。
- 子供食堂を通して、放課後の子供の面倒を見たり、遊んだり、つながりを太くしていつている。そこに社協の手伝い、ボッチャのやり方などを関連させていくような方法をとっています。
- 地域の大人が子供を見守る為の活動が重要と思いました。
- 地域ボランティアとこれまで以上に連携して、共に、子供達を支える手立てなどを模索したいと強く感じた。
- 村の文化祭。グループやクラスの仲間とステージでの発表や展示などやっています。
- 地域連携をどう図るのがキーワードだと思います。
- 通学合宿やその他の活動。
- みんなが自己満足することが大切だと思いました。
- 社会教育に対する教育委員会の在り方も考えるべきだと思う。
- 本年度部活動の地域展開が始まりました。午前中は町内のイベントに吹奏楽クラブが演奏し、たくさんの方から拍手を送られていた。地域から、中学生の手を貸して欲しいという要望を受けて、やりたい生徒が地域の行事のスタッフとして活動する機会が増えています。
地域の方から「ありがとう」「次もお願いね」のフィードバックが子供達の自己肯定感の向上につながっています。
- 学校と地域のつながりが一層大切になっていくと思います。現在、お世話になっている地域は協力的で助かっています。地域に誇りをもたせることができても、必ずしも学校を卒業後、自分の地域に来るとは限りません。そこが課題だと感じています。
- 地域には、様々な活動団体があるのですが、その連携を取ることができないので、個々での

つながりで活動しています。それぞれの団体でつながっていけるようにしていきたいです。

- 陸上競技を通じて、子供達と一緒に楽しんでいます。
- 山ノ内町で行われている祭礼神楽の為に子供達から老年までつながり交流の場となっています。
- 通学合宿を行っています。
- 様々な人と関わり、体験することが豊かでたくましい子供を育てることにつながると思います。
木島平村の地域連携コーディネーターの活動はまさにその取り組みだと思いました。
- 様々な体験を通して多世代交流をしていきたいと思います。
- 村の社会教育委員では多世代交流に取り組んでいます。まだまだ道のりは遠いですが、交流をすることでお年寄りを巻き込み、多世代交流が完成していけたらと思います。
- 社会教育として地域の愛着が育つような視野で計画することが重要と感じました。
- 芸術鑑賞の機会が減ってきたので、演奏家の端くれとして、様々な楽器の演奏や体験を環境を整えればやっていきたいと思います。
- 夏休みに小学生の居場所づくりとして企業見学会を実施している。坂城町
- スポーツ少年団、交流スポーツ大会などを実施しています。
- 坂城町では南条小のブラスバンド部が町の小学生なら誰でも参加できるものに地域移行しつつあります。持続可能な部活動は地域の子どもたちの成長にとってこれから大きな役割を果たしていけるよう取り組みが進められています。
- どの市町村でも行っているかもしれませんが、山ノ内町では昨年度から中学生と行政でワイワイ話しをする、まちづくりこども委員会を年に4回行っています。
公開ではありませんが、こどもとの意見交換は、主権者教育や、将来的な地域づくりの基盤となるのかなと感じております。
- 地域の方々との交流や、個々の技術を子供たちへ交流を通して伝えています。また、先輩方のお話を聞く機会を設け、未来への夢や目指すものを考える場になっています。
- 育成会事業。地域の方が学校のクラブなどのサポート。
公民館図書委員による読み聞かせボランティア。
大人も子ども一緒に行うスポーツクラブ。

場所



基本情報

R7.3.31現在

- 人口：10,217人 ■世帯数：4,222世帯
- 面積：75km² (人口密度 141.05人/km²)
- 主な地域内の移動手段：
自家用車、バス、デマンドタクシー

特徴

地理・交通

県庁や長野駅まで車で30分位です。秋に開業予定の大型商業施設も同じくらいの時間です。まあまあなアクセスです。

気候
(冬の様子)

➢ 最大降雪量は1mぐらい。近年は暖冬の影響もあり、そんなに積りませんが、雪かきが必要ですし、屋根の雪下ろしも、たまに必要です。

名物

➢ 果物のりんごが有名！日本一りんごの町を目指しています！

飯綱町社会教育委員会

委員会の構成

- 学校教育 1名、社会教育 3名、学識経験 4名の計 8名で構成されています。
- 任期は令和6年4月1日から令和9年3月31日の3年となっています。

活動状況

- 委員会は年6回開催し、各委員からの日頃の活動状況の報告や当面の課題について協議しています。また、公民館事業や生涯学習（文化財関係含む）関係事業に広く関わり、これら事業に対する助言・提案などを行っています。

事務局

【飯綱町教育委員会 生涯学習係】

電話：026-253-6560 (飯綱町民会館)

E-mail：gakushu@town.iizuna.nagano.jp



ひと自然いきいき未来

飯綱町

飯綱町ってこんなまち

飯綱町社会教育委員会



飯綱町PRキャラクター「みつどん」

飯綱町について



飯綱町は、平成17年、平成の大合併で牟礼村と三水村が合併してできました。県の北部に位置し、長野市、中野市、信濃町に接しています。

このまちには霊仙寺湖を中心とした別荘地、スキー・ゴルフ・キャンプなどのアクティビティフィールド、緑豊かな田園風景や標高による寒暖差を活かした果樹園などが広がっています。

- 総人口：10,217人（2025年3月31日現在）
- 総世帯数：4,222世帯（2025年3月31日現在）
- 高齢化率：41.1%（2025年3月31日現在）
- 総土地面積：7,500ha（2020年農林業センサス）
- 林野面積：4,064ha（2020年農林業センサス）
- 耕地面積：1,740ha（2020年面積調査）

ざっくりいうとこんな感じ！

• 適度に不便（でも極端に不便じゃない！）

農村の景色と、中心市街地の利便性が両立した場所。

長野市中心部へも30分ぐらいで行けちゃいます。

首都圏からのアクセスも悪くないんです。東京から新幹線と電車で約2時間くらいです。

• ちょうどいい田舎

良くも悪くも田舎です。夕焼けはきれいだし、水・お米・野菜・果物が美味しい。

お祭りとか消防団とか町民運動会とか、地域の活動がまだまだあります。

• 雪は降る！

飯綱町は豪雪地帯。なので雪は結構降ります。

雪かきが必要ですし、屋根の雪下ろしも、たまに必要です。

ここから約30分で...

長野駅



飯綱町の風景



こんな景色！

2年目の通学合宿

～広がる学びとつながり～

通学合宿とは・・・



通学合宿とは

地域の公民館・集会所・青少年施設・学校など宿泊可能な施設で異年齢の子どもたちが共同生活を行いながら通学すること

目的

現代の家庭では昔に比べ、子どもの行う仕事が増えているため共同生活の機会を作り衣食住を共にし互いの立場を理解し、自らの役割を認識し協力し合う心を育むとともに、日常生活に必要な生活技能を習得し、子どもの「社会力や生きる力の向上」

飯綱町の通学合宿



目的（飯綱町）

(1) たくましい豊かな心を育てる

- ・自分の事は自分でする自立心を育てる
- ・自らルールを考え、集団生活により社会性を育てる
- ・異年齢集団の生活により思いやる心連帯感を育てる
- ・家庭や社会の人たちへの感謝の心を育てる
- ・スマホやテレビの無い生活に耐える忍耐力を育てる

(2) 家庭教育を見直す機会とする

- ・3日間の子離れ体験の中で、わが子を見つめ直し、しつけや子どもへの関わりを話し合う機会とする。

(3) 地域の子どもを地域で育む気運を高める

- ・地域住民がそれぞれの立場で参加する事で、子どもたちへの理解を深め、地域での見守りの協力体制を整備する。

参加者の決まり

- ・通学合宿中はゲーム機・テレビ・ラジオ・まんが・スマホなどは禁止
- ・通学合宿の期間中は、塾、習い事、スポーツ少年団活動などには参加できません。
- ・自分のことだけでなく、班のメンバーと協力して、食事準備、後片付け、掃除などをします。
- ・上の学年の子は、下の学年の子の面倒を見ます。
- ・朝起きた時、登校時、下校時、寝る時、食事時などのあいさつをきちんとします。

～「通学合宿成功のカギは、スタッフと子ども、保護者そして地域の方々との信頼関係づくりです～

【スタッフ心得】

- 1 子どもたちへの支援がお仕事です！ 大人は手を出さない
- 2 子どもにはできるだけ声を掛け、笑顔で接しましょう！
- 3 保護者や地域の方々にも“あいさつ”・“笑顔”が基本です！
- 4 “通学合宿”をきっかけに集まった仲間との交流を深めましょう！
- 5 子どもが主役です。宿泊施設・活動場所での飲酒・喫煙はできません！
- 6 子どもたちの前ではスマホを極力使わないようにしましょう！
- 7 地域のルールやマナーを尊重しましょう！
- 8 情報管理を徹底し個人情報の流出に注意しましょう！
- 9 怒らない、叱らない。言葉で説明する。

通学合宿の準備から終了まで

【いいつな通学合宿実行委員会】

- ・社会教育委員
- ・読書活動推進委員
- ・元教員
- ・民生児童委員
- ・教育委員 など

計36名

実行委員会の設立
(6月上旬)



参加者募集
(6月9日～24日まで)



打合せ準備
(25・26日)



オリエンテーション
(7月1・2日)



夕食の買い出し(買い物体験)
(4・7日地元スーパーにて)



荷物搬入
(開催の前日)



通学合宿実施
(牟礼2泊3日・三水3泊4日)



評価・報告

日程

三水地区 7月8日～11日 3泊4日

牟礼地区 7月9日～11日 2泊3日

参加者

- 三水小学校4年生～6年生 定員20名
13名
- 牟礼小学校4年生～6年生 定員20名
19名

計 32名



通学合宿開始

- 1日目
 - 14:45分 下校
 - 15:30分 合宿所到着 ~ 宿題
 - 16:30分 初めの会
 - 17:00分 夕食準備(1班) 自由時間
 - 18:00分 いただきます
 - 18:30分 片づけ(2班) 自由時間
 - 19:00分 入浴
 - 20:00分 風呂掃除(2班) 読書 自由時間
 - 20:30分 班別ミーティング 就寝準備
 - 21:30分 就寝



•2日目

14:45分 下校

15:30分 合宿所到着 ~ 宿題

16:30分 自由時間

17:00分 夕食準備(2班) 自由時間

18:00分 いただきます

18:30分 片づけ(3班) 自由時間

19:00分 入浴

20:00分 風呂掃除(3班) 読書 自由時間

20:30分 班別ミーティング 就寝準備

21:30分 就寝



三水地区

松雲寺(しょううんじ)











初日



2日目





牟礼地区

飯綱町民会館











通学合宿の感想とこれから

開催にあたり苦労したこと

- 会場きめ
 - 参加対象
 - ボランティアの集め方
 - アレルギー等について
 - 風呂
 - プール
- など

通学合宿を終えて

- 通学合宿などのとりくみが地域と子どもの、つながりづくりのきっかけになりそれが、良い思い出や、地域への愛着、誇りにつながったりすれば、進学や就職などで、一度は地域を離れても、いつか戻ってきてくれるような、そんなことになればいいなと思い取組を行っています。

劇的な変化があるわけではありませんが、こういった取り組みを続けることが、地域の子供を地域で育てることにつながり、また子どもたちだけではなく、ボランティアとして参加いただいた大人の輪が広がり、大人にもそういった意識が広がっていけばと考えています。



質問

ご清聴ありがとうございました





ご清聴ありがとうございました

第36回 長野県社会教育研究大会に参加して

北信地区社会教育委員連絡協議会 副会長 黒岩 裕子 (高山村)

令和7年9月8日長野県総合教育センターにおいて、「地域のつながりを深め、共に学び合う社会教育の役割を考える」をテーマに長野県社会教育研究大会が開催されました。約270名が日頃の社会教育活動の成果や課題などについて学び合い、語り合う中で地域の特性やニーズを共有し、人と人とのつながりを再認識する機会となりました。

開会行事では県表彰が行われ、北信地区からは3名の皆様が受賞されました。これまで社会教育にご尽力くださったことへの感謝の気持ちを伝えるとともに皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

全体会では、演題「いのちと対話する歴史～共に学ぶ学校教育・社会教育を目指して～」長野県伊那弥生ヶ丘高等学校の小川幸司先生によるご講演を聞かせていただきました。世界史(歴史)と聞くととかく知識を詰め込むイメージを持つ私でしたが、小川先生のお話は大変興味深く学び直してみたいとも思える程でした。特に印象に残ったことを抜粋させていただきます。

- ・ 本当の学力とは、知識を暗記しているかどうかだけではない
- ・ 学んだことを活用してさらに考えるべきテーマを見出していく力
- ・ よりよく生きていこうとする力こそ、学力なのではないだろうか
- ・ 歴史の学習とは、正しいといわれる知識を習得、また暗記していくことではなく、これまでの人類が重ねてきた膨大な歴史叙述の束を検討し、自分なりに歴史叙述を独善的にならないようにねりあげていくいとなみである。

また、小川先生の世界史の授業を受けた生徒さん達が学びの中で、①様々な視点に立つ物事の見方②その人の痛みや苦しみを考える力③事実を追い求める姿勢が必要であると感じていたそうです。

まとめとして、社会は自主性・対等性・公平性を大切に学ぶことによって、自主的で、対等で、公平な人間同士のきずなが生み出されて行くことであり、学校教育と社会教育に共通しているのではないだろうかと話されていました。小川先生のご講演から学びを深めていくことの重要性をさらに感じる事ができました。

分科会では

- ① 子どもの育ちを支える社会教育委員の役割 (立科町)
- ② 地域をつなぐ大鹿中学校歌舞伎 (大鹿村)
- ③ 人と地域をつなぐ大桑村の社会教育委員 (大桑村)
- ④ 「地域の子供を地域で育てる」を目指して (飯綱町)

の4分科会において活動事例の発表と質疑応答が行われました。北信地区代表として発表いただいた飯綱町社会教育委員の小林悦夫さんはじめ関係の皆様、ありがとうございました。

県大会全体を通して感じたことは、広い県内であるからこそそれぞれの地域の特性を生かした多様な社会活動が行われているのでしょう。こつこつと「こと」や「もの」を積み重ねていくことで人と人がつながり、息吹が生まれ人も地域も育っていきます。ひとりではできないことも、集いの中で不思議とエネルギーが湧いてきます。そしていつしか次世代へのバトンが受け継がれ、新たな風が吹きはじめるのでしょう。常々思うことではありますが、社会教育において大切なことは、正解や答えを導きだすことよりも、誰かと誰かのパイプ役になることなのではないでしょうか。

今年度も県内各地の皆様と直接語り合うことで心が満たされました。年に一度ではありますが、参集することで、新たな発見や気づきの機会になることが県大会の醍醐味なのではないでしょうか。

運営の皆様のご苦勞は計り知れませんが、より良いつながりと学びを深めていくためにも今後の県大会にも期待を寄せていきたいと思っております。

5 第56回 関東甲信越静社会教育研究大会に参加して

大会概要

期 日 令和7年11月20日(木)21日(金)

開催地 神奈川県横浜市

全体会 関内ホール

分科会 関内ホール 横浜市開港記念会館 横浜情報文化センター
横浜市技能文化会館 かながわ県民センター

大会スローガン

『社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ』

研究主題

『すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること』

全体会報告

北信地区社会教育委員連絡協議会 会長 羽田 吉彦

記念講演 「誰もが自分らしく生きることができる社会をめざして」

認定 NPO 法人 スローレーベル芸術監督 栗栖良依氏

東京2020パラリンピック開閉会式ステージアドバイザーを務めた経験を通じて、「誰もが自分らしく生きる」というテーマについて、これまで体験してきた社会の変化や、いまだに実現に至らない現状や課題等についての内容。

現在の活動に至る背景

リレハンメル冬季五輪の開会式に影響を受け、こんな仕事を狙っていたという目標を持っていたが、2010年栗栖氏自身が、骨肉腫に罹患する。3回の手術と抗がん剤治療8クールを体験し、人生観が大き

く変化する。右足の中はほぼ人工物となった。今を大切に心地よく良い仲間と生きるという方向に変化する。アーティストを障害者施設に派遣する社会復帰のためのプロジェクト「スローレーベル」を創設。

経歴

様々な分野について横断的なアートを学ぶために、東京造形大学でアートマネジメントを学ぶ。その後、イタリアのドムスアカデミーでアートやビジネスを包含するスケールの大きな学びである、ビジネスデザインの修士号を取得。

東京2020の文化イベントのヨコハマ・パラトリエンナーレの総合ディレクターを務める。

東京2020パラリンピック開閉会式ステージアドバイザーと務める。

現在の活動

障害者がそのイベントに参加するため、そこにたどり着くためのアクセシビリティの仕組みを開発した。障害者は目的の場所に行くための物理的な問題や、自分が置かれている環境などについて、思っていることや困っていることについて十分なコミュニケーションが出来る仕組みである。この仕組みの中で、障害者が活躍できる場を企画演出している。障害者を起点にショーを創り、健常者も一緒に何かするのが一番良い方法であり、障害の有無を超えた協働のチャンスとなる。その中で、障害者も社会に入っていくためのスキルを学び、障害のない人も居心地の良い「自分らしくいられる場所」になっていく。そうした場をつくるのが活動の中心。

シンポジウム テーマ

『すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること』

シンポジスト 青木信二氏（厚木市森の里公民館 前地区館長）
阪本陽子氏（東京都台東区教育委員会 社会教育主事）
渡邊健一氏（相模原市 社会教育委員）
コーディネーター 伊藤真木子氏（青山学院大学 教授）

青木信二氏

地域活動に30年以上従事、厚木市社会教育委員をはじめ幾つもの役職をこなしながら地域学校協働活動を実践確立した。

地域ぐるみの家庭教育支援、協働活動で大切なのは立場や年齢等様々な人々が台頭に活動すること。

地域の人が年間71コマの授業を担当している。

学校の運動会と地区の運動会を1つにしてみた。難しさはあったが、やってみたら好評だった。

阪本陽子氏

社会教育主事の減少は行政内での評価の低下なのか？

地域の課題が学びや活動のテーマに上がりにくい現状を説明。

学びの場にアクセスしにくい外国人住民。日本人と外国人が共に学べる仕掛け作りがヒント。

例えば、「防災のための街歩き」のような、参加しやすく日本人もともに参加できるものは、外国人に

特化した事業よりも効果的。外国人に対して見えないバリアーを張っている日本人にとっても、共に学ぶことが大きな意識の変化になる。

渡邊健一氏

本人が視覚障害者で30年前から全盲。音訳←音を点字にすることに関わって10年過ぎた。

図書館で目の前で本を読んでもらって音訳するボランティア。

福祉教育の講師を長年務めたが、学校教育一辺倒にならなくて良かったという印象を持っている。社会教育に救われている人は必ずいる。

公共施設のバリアフリー問題を全盲の人間がその観点や立場から、主となって、施設を案内しそこにある課題を提起していく。一般の人と共に学ぶことによってチャンスが広がる。単に支援ではなく、共に理解を深めることが重要。ここに社会教育の出番がある。

伊藤真木子氏

地域課題に正面から向き合う事は、手法としては難しい。人々がやってみたい事、好きな事など、そんな観点から、何とか課題に近づけ、置き換える事が出来れば方向が見える。また、何かに反対する人はその課題に興味を持っている。その声を聴くことも課題に向き合うことになる。

シンポジウム全体は良く準備されていてシンポジストとコーディネーターの意思疎通も十分であったという感想。一人で話しすぎたり、テーマから外れたりすることもなく、非常にまとまっていて、それぞれの立場からの見方、考え方をバランスよく引き出していたと感じた。

分科会報告

北信地区社会教育委員連絡協議会事務局員 齊藤英明（指導主事）

第3分科会 地域学校協働活動

テーマ

『地域学校協働活動において地域の資源を生かし、活動をとおして、地域の活性化を図り、積極的な世代間交流につなげる取組について考える』

新潟県見附市

社会教育委員がつなぐコミュニティ・スクールと地域学校協働活動

～新潟県見附市立見附中学校での取組～

（1）見附市における地域学校協働活動

教育創造都市“みつけ”をめざし、全学校で「共創郷育」として、地域と共にある学校づくりに取り組んでいる。

(2) 見附市の社会教育・スポーツ推進審議会

教育委員会が、社会教育・スポーツ推進審議会委員を委嘱している。

(3) 実践内容

見附中学校区には5つの地域コミュニティがあり、それぞれに特徴がある。

地域連携協働活動は特徴を生かせるように検討し行ってきた。全校生徒が地域に関わる機会になっていないことが課題となっていた。学校が、保護者や地域と新たな関わりを創造し、新たな地域連携の形を創り出そうと取組を始めた。

(4) 中間組織『コアチーム』と『プラットフォーム』

学校と地域の連携・協力について、双方で検討する必要があった。そこで、学校と地域の間を埋め、学校と地域などの連携・協力を促進する機能を担う中間組織となる『コアチーム』と『プラットフォーム』が設置された。

『コアチーム』→地域コーディネーター、同窓会長、コミュニティ代表、教員のコアメンバーで構成され、プラットフォーム運営の主体となりコーディネーターとしての役割も担った。

『プラットフォーム』→地域資源と地域内外の関係機関・人材を結び付けて価値を創造し、それらを学校と地域に還元する仕組みである。

(5) 地域と共に未来を創る活動

学校運営協議会委員、地域学校協働本部委員による会議で、社会の課題解決活動を通して、生徒の問題解決力や自己肯定感を育むために『地域と共に未来を創る』活動について、意見交流した。中学校の生徒会役員もアイデアを出すような会議となった。熟議を重ねて、生徒会が、企画段階から関わる『参画』とサツマイモ『栽培』を中心に、地域と学校が連携した取組を『ロードマップ』にして、活動を始めた。

(6) 『みちゅまいも』と『友和祭』

『栽培』では畑づくり、苗の植え付け、収穫イベントなど行った。サツマイモは『みちゅまいも』とネーミングされた。収穫後は、学校外での販売や生徒会行事『友和祭』に向け、価格設定、販売、焼きいもづくり、出店など取組が展開された。

(7) 社会教育委員の活動

①見附中学校への想い

社会教育委員の見附中学校への想いは大きく、社会教育委員の中には、PTA 会長や同窓会会長も経験した方もいる。

社会教育委員は、学校と地域がどうやったら上手くいくのかをずっと考えてきている。

②見附中学校の変化

令和4年度、令和5年度に生徒会がCSに関する会議に参加し、共に話ができたことは社会教育委員として嬉しく思った。地域と学校との活動について、情報発信を行う際に、生徒がつくった方が地域の方は嬉しいだろうと考え、社会教育委員として意見を発表した。さつまいもの活動などを基に、地域とのつながりを更に深めることができることをねらいたい。社会教育委員として『地域の潤滑油』を意識して、見附中学校の活動を盛り上げていくようにしたいと思う。

神奈川県真鶴町

弱みを強みに ～ 小さな町の挑戦 ～

(1) はじめに

①真鶴町の概況等

神奈川県内で2番目に小さい自治体で過疎地域にも指定され、地域資源も乏しく、少子高齢化が急速に広がる小さな町である。そのような中、社会教育委員がつなぎ役となり、町にある資源を可能な限り活用し、町にないものは外に求めている。コンパクトな規模の町であることを生かし、地域を巻き込みながら児童生徒の育成に取り組んでいる。

②社会教育委員会議の状況

社会教育委員の構成員は小学校長、社会教育関係団体代表、地域学校協働活動関係者、PTA役員経験者、学識経験者、青少年健全育成団体代表等で年間4回の定例会と必要に応じて臨時会を行っている。

③社会教育委員の活動

社会教育生涯学習事業に企画や準備の段階から事業終了まで参加・協力し、改善を図る提言書の提出を行っている。

(2) 社会教育委員のねらい

社会教育生涯学習事業を展開する中で、資源を最大限に活用して効果的な事業とすることネットワークを活用して新たな事業を創っていくこと。

具体的な活動としては、『地域資源を活用した子ども陶芸教室』『カヌー体験』などを行っている。社会教育生涯学習事業の企画、それらに参加する中で、委員の感想や改善点を事業報告書にまとめることで事業の改善や新たな事業の創出を図るようにしている。

社会教育生涯学習事業に直接携わり、評価することを大切にしている。人と人、人と地域、地域と地域とをつなぐ行動力が求められていると考えている。

(3) 社会教育委員としての成果と課題

社会教育委員は独立した立場で職務を行うことができる独任制としている。個人として教育委員会へ意見を述べるができる。成果の具体としては、地域学校協働活動において小学生がつくった問題集をご高齢の方々にも活用できないかという社会教育委員の話で、介護予防教室で活用するようになったことを挙げるができる。こうした小さな実績を大切にしたい。課題の具体は、社会教育委員の活動が、地域住民に知られ、広がっていないことである。社会教育委員の活動内容や実績が広く普及すれば、新たなネットワークの広がりにもつながると思う。

○所 感

関東甲信越静社会教育研究大会における実践発表をお聴きすると市町村の社会教育委員がコミュニティ・スクールに関わる会議やそこから始まった地域学校協働活動に大いに関わっている市町村がたくさんあることがわかる。地域のことや地域資源を知っている社会教育委員が、地

域連携を重点にしている学校に関わっていくことは自然なことであるし、学校に関わってくれる社会教育委員がいることは、学校としても嬉しいことである。学校関係者も社会教育委員と積極的につながっていくことの大切さも、これら市町村の事例は示してくれている。学校関係者や社会教育委員の負担も考えていかないといけない。事例の中では、夜遅く活動するもの、休日に活動するものがあることも発表されていた。このような大会の場なので、マイナスな部分の発表は極力避けていると思われるので、隠れている感情も聴きたいと思った。発表後に座席がそばの方とグループトークをする機会があった。その方は「地域に関わることができるのは何も社会教育委員だけではないと考えているので、自分は社会教育委員ではないけれども、積極的に地域のために動きたい」と思いを述べていた。更に、「こんなにも地域に対して関わり学校や地域のために活動されている方がいることに驚いたし、自分も、もっと地域のことを知って、地域のために活動していきたいと思った」とのことだった。学校と地域とがつながり活動するために社会教育委員がそれらに関わることは有効なことだと思われる。

Ⅲ 市町村社会教育委員連絡協議会の活動の様子

① 長野市

○ 構成

学校教育関係者 1名 社会教育関係者 5名 家庭教育関係者 2名
学識経験者 1名 計9名

- ・任期は、令和7年6月5日から令和9年6月4日までの2年間
- ・選出については、9名中の8名は各種団体に委員の推薦を依頼し、1名は公募
- ・令和7年度からの新任者は6名

○ 令和7年度活動報告

《長野市事業関係》

- ・第1回長野市社会教育委員会議 開催（令和7年7月18日）
- ・第2回長野市社会教育委員会議 開催（令和8年2月13日）

《大会関係》

- ・北信地区社会教育委員連絡協議会総会及び地区研修会（小布施町公民館）
- ・長野県社会教育委員連絡協議会総会（リモート）
- ・長野県社会教育研究大会（長野県総合教育センター）
- ・第67回全国社会教育研究大会（岩手県盛岡市）

○ 今年度の社会教育委員の活動を振り返って

長野市社会教育委員 吉江 速人

長野市では、令和7年度に新たな社会教育委員の委嘱となり、私は社会教育委員として3年目となりました。

長野市社会教育委員としての令和7年度委員活動等を記載いたします。

Ⅰ 長野市社会教育委員会議関係

本年度は、これまでに2回長野市社会教育委員会議を開催しました。
審議内容等は、次のとおりです。

(1) 第1回長野市社会教育委員会議

- ① 日時 令和7年7月18日 午後2時から
- ② 場所 長野市生涯学習センター
- ③ 協議事項

- ・長野市生涯学習センターにおける主催講座等の実施状況と施設の利用状況について
長野市生涯学習センターから、自主企画事業の実施状況や利用状況等について説明していただき、その説明内容を受け、委員と意見交換を行いました。

- ・ 令和7年度社会教育関係事業計画及び令和6年度事業実施状況等について
令和7年度事業計画、令和6年度事業実施状況等について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 第三次長野市生涯学習推進計画の取組状況について
第三次長野市生涯学習推進計画の取組状況について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 芋井公民館の交流センター化について
現在工事が進められている芋井公民館の交流センター化の進捗状況等について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 施設案内予約システムの導入について
公民館・交流センターにおける長野市施設案内予約システムの導入について、事務局から説明があり、その内容について議論しました。

(2)第2回長野市社会教育委員会議

① 日時 令和8年2月13日 午後2時から

② 場所 長野市立更北公民館

③ 協議事項

- ・ 長野市子どもの権利条例、長野市若者に関する計画の策定について
現在施行中の長野市子どもの権利条例及び現在策定中の「長野市若者に関する計画」について説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 長野市立更北公民館の事業について
長野市立更北公民館長から、施設見学とともに、公民館で実施している事業内容及び実施状況等について説明があり、その説明内容等を受け、委員と意見交換を行いました。
- ・ 長野市の社会教育の推進について
長野市内の公民館・交流センターの状況等について事務局から説明があり、その内容について議論しました。
- ・ 施設案内予約システムの稼働開始に向けた状況について
長野市内の施設案内予約システムの稼働開始に向けた状況などについて、事務局から説明があり、その内容について議論しました。

2 大会関係

大会等関係する行事等の開催につきましては、上記の「《大会関係》」のとおりであり、それぞれの行事等に社会教育委員または事務局職員が参加したところでありますが、その中の塩尻市の長野県総合教育センターで開催された「長野県社会教育研究大会」と岩手県盛岡市で行われた「第67回全国社会教育研究大会岩手大会」について、若干触れさせていただきます。

令和7年9月8日に開催された「長野県社会教育研究大会」では、長野県伊那弥生ヶ丘高等学校の小川幸司教諭から「いのちと対話する歴史—共に学ぶ学校教育・社会教育を目指して」と題した講演がありました。

この講演では、平成6年(1994年)6月に発生した「松本サリン事件」が題材とされた関係で、その内容には、事件当時、被疑者と目された方も登場されますので、詳細は省かせていただきますが、小川講師はその講演の最後に、「社会は、自主性・対等性・公平性を大切にする学びによって、

自主的で対等で公平な人間どうしの絆が生み出されていく。このことは学校教育と社会教育に共通しているのではないだろうか。」と結ばれていることが、印象的でした。

また、令和7年10月30日から31日にかけて「学びと絆で未来を拓く！社会教育のイーハトーブをねざして in いわて」と題して開催された「第67回全国社会教育研究大会岩手大会」には、初日の30日に出席させていただきました。



今年度は、全国大会が岩手県盛岡市で開催されましたが、来年度の全国大会は、大阪府大阪市で開催される予定です。

この大会は、劇団もしよこむ代表小笠原景子さんの語りと岩手県立南昌みらい高等学校音楽部との宮沢賢治をモチーフにした舞台表現で始まり、大会行事、記念講演、シンポジウム(パネルディスカッション)へと続きました。

記念講演では、岩手県奥州市に所在する国立天文台水沢VLBI観測所の本間希樹所長の「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」という講演がありました。

その後、「共に学び支えあう社会教育の実践 ～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～」ということをテーマにしたシンポジウムが開催され、各界からの4名の方々によるパネルディスカッションが開催されました。

記念講演の主内容は、国際緯度観測事業の進展の中で水沢の地に天文台ができたという理由とから始まり、地球から遠く離れた M87 のブラックホールの話ではありますが、「社会教育と研究者の関わり」として、「研究者には、教育・研究に関する細かいルールがない。その活動は、どちらかといえば社会教育に近いのではないか?」とし、学校教育(小・中・高・大学等)と社会教育(図書館・公民館・博物館・科学館等)との関係は深いのではないかと述べられていました。

とかく、教育の中の学校教育を除いたものが社会教育と定義しがちですが、確かに、教育のある分野に興味を持つための大きな要素を社会教育は担っていると感じた次第で、その意味において、私にとっては大きな意味のある講演でした。

3 その他

長野市社会教育委員会議としての活動報告に併せまして、若干、個人的な社会教育に関連する活動を記載させていただきます。

私が所在する自治区のある善光寺周辺の地域では、毎年概ね7月中旬に「御祭礼 ながの祇園祭」があり、それぞれの自治区による屋台巡行が行われます。

「御祭礼 ながの祇園祭」は、善光寺の西側に所在する「弥栄神社」で鎌倉時代から続くお祭りです。かつては日本三大祇園祭の一つに数えられておりましたが、地震や戦争等で一時中断を余儀なくされるなどの経過の中で、地域のそれぞれの力を結集し、再び毎年開催されることになったお祭りです。

このお祭りの重要な儀式の一つが奉納屋台巡行ですが、この屋台巡行は、近隣のそれぞれの自治区で順番に行っており、通常は実質的に5年に一度の巡行となるのですが、昨今の長期にわたった新型コロナウイルス感染症による屋台巡行等の中止などの影響もあり、当自治区が屋台巡行を行ったのは平成27年以来、実に10年振りのことでありました。

10年振りとなった屋台巡行に当たっては、概ね1年前から自治区内に「屋台巡行実行委員会」を立ち上げ、10年前に実施内容等を紐解きながら、準備を進めたところであります。

主な準備事項は、次のとおりです。

- ・ 巡行屋台の整備
- ・ 参加者の服装の決定と手配
- ・ 屋台に搭乗する踊り子、お囃子、曲目の決定
- ・ 総勢170名の参加者の募集
- ・ 巡行当日の役割分担の決定 等々

それぞれの準備を行う中で実感したのは、10年の時の流れでした。

10年前には中心的に活動していただいていた方々が、高齢のため、謂わば「後進に道を譲る」という感じとなり、とは言え、そのとおりに「後進」がない（育っていない）という実情です。

そのような状況ではありましたが、何とか予定通りの参加者が集まり、猛暑で熱中症が心配された7月13日(日)ではありましたが、無事に終了することができました。

このようなお祭りを実施するに当たって、改めて感じたことは、地域住民の結集力(=地元愛)と、伝統文化を守る(=継承する)ということの意識の強さです。

日々暮らしていく中では、あまり地元の方々のこれらに対する意識の強さということを感じないところですが、改めて、このような行事は地域の結集力の醸成につながるとともに、若い世代への伝統文化の継承にもつながるものと感じたところです。

終わりにあたりまして、「個人的には」という前置きで、いつも記載していることですが、人口減少が、今後の私達が住んでいる地域にも、どのような影を落とすのか心配しているところです。

長野市を含め日本は高齢化が進んでおりますので、社会教育活動を行う方々は、当面はいらっしゃるかもしれませんが、後に続く人材不足が懸念されます。

そのようなことから、少し先のことになるかもしれませんが、社会教育についてもダウンサイジングを議論する時期が間もなく来るのかと懸念しております。

② 須坂市

1 須坂市社会教育委員について

○構成

社会教育関係者 3名 学識経験者 2名

学校教育関係者 1名 家庭教育関係者 2名 計8名

○任期

令和7年(2025年)6月1日から令和9年(2027年)5月31日までの2年間

○活動実績

社会教育委員会議 2月

北信社会教育委員連絡協議会 理事(島田 博雄)

北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会 参加

長野県社会教育研究大会 参加

地域ぐるみの共育フォーラム兼北信地区社会教育研究大会 参加

2 今年度の活動を振り返って 4名の委員より紹介します。

「小学生との時間を過ごして」

須坂市社会教育委員 竹前 美枝子

今年の5月から11月まで小学生のクラブ活動の一つである、生け花クラブのお手伝いを師岡委員さんと二人でさせて頂きました。久しぶりの人前での生け花だったので不安を感じていました。…実際の処、人数不足で中止になれば等と考えておりました。それが、参加者女子6名と先生1名の計7名も集まって頂き5月の1回目を迎えることが出来、参加者の皆さんと顔を合わせ挨拶が出来ました。



まず初めに花を生ける事が初めての事でしたので、最初は花器、鉢、鉢剣山等を机に並べ、道具の説明から始め怪我をしない様取り扱いの注意等の話をしました。その後実際に皆さんに生けてもらい1回目は終わりました。ほぼ月に1回と期間が空いていましたが、2回目3回目になると時間もかからず皆さん思い思いに花を生ける様になり、私達が細かい事等言わず楽しそうに、のびのびと生けていて、自分の生けた花をタブレットで写し、友達にも観て貰いたいと、廊下に並べる様になりました。

夏の花は早めに萎えてしまう事もありましたが、全体的に同じ花でも個性が出て、子どもたちは何回もやり直したりするようになり、成長が見れて楽しかったです。最後の8回目の日、子どもたちからの感謝の寄せ書きをいただきました。最初は色々考え、お断りする事ばかり考えておりましたが、8ヶ月子どもたちと接する事が出来、私もたくさんの思い出が出来ました。



社会教育委員となり小学生、中学生、高校生と沢山の子どもたちと活動することが多くあり、近年入学式、卒業式等出席していますが、子どもたちの笑顔を見る度に私の心も温かく感じられる1年間でした。

「学校支援ボランティアの活動を通して」

須坂市社会教育委員 塚田和男

社会教育委員となって3年目を迎える事となりましたが、現在、市内の相森中学校の「学校運営委員」として「学校支援ボランティア」の活動をしています。会社を停年退職した頃に、今までと異なる生活も必要と考え、ボランティア活動に興味を持ち、市のボランティアに登録をして、少しずつ活動を始めました。そんな折、先に妻が相森中学校の「学校支援ボランティア」で「学習支援」をしており、それならば出来ると思い、加わる事にしました。支援活動は、放課後の一時間での自主学習のサポートです。

相森中学校が年間を前期と後期に分けて、一年生から三年生まで全生徒を対象に参加の希望を募り、開かれます。毎年、10数名の希望者がおり、今期も同様で、妻と二人で活動をしています。

生徒は「今日は何をどのように進めるか」を決めて集中して自習します。漢字練習や生活記録作成や数学や英語などの宿題をしたりしていますが、そんな時間に、基本問題や応用問題、時にはテスト前の対策問題など、状況に応じて一緒に考えたり、ヒントを出したりして、学習のサポートをします。

私は、教師の資格も無いのでこれまでの経験や情報などを基に、わかりやすく説明して理解してもら

えるように努めています。当初は「学習支援ボランティア」として始めたのですが、それが、次には、最初に掲げた「学校運営委員」としての活動に繋がりました。今、文部科学省が「コミュニティスクール活動」を勧め、長野県でも「信州型コミュニティスクール」の活動をしています。信州型とは、(1)学校運営参画(2)協働活動(3)学校評価機能を一体的、持続的に実施する仕組みを構成して、学校と地域住民の協働により「地域とともにある学校づくり」を目指した活動です。私は協働活動で地域住民参加の「学校支援ボランティア」に参加し、更に、「学校運営委員」として色々な行事や生徒活動、生活状況にも目を向けるようになりました。他の委員の方と共に、生徒が充実した中学校生活を過ごせるよう運営会議では活発な意見交換に努めています。



今後も「地域とともにある学校づくり」の一員として、少しでも力が出せればと思っています。

「活動を振り返って」

須坂市社会教育委員 小林千鶴子

私は今年度もスポーツ推進委員としての活動を報告させていただきます。

(社会教育委員の研修会等なかなか参加できずにいますので)

昨年11月13日と14日に全国のスポーツ推進委員研究協議会が長野市で行われました。そして須坂市が分科会の担当市になり、推進委員になり初めての運営スタッフとして参加する事になりました。

テーマを「行こう!地域スポーツの頂へ」とかけ、基調講演はパリオリンピック柔道女子の金メダリスト出口クリスタさんを講師に迎え講演をして頂き、須坂市の分科会では、テーマを「アダプテッドスポーツの推進と健康寿命の延伸を支えるスポーツ推進委員」と題して3名の方がそれぞれの分野での活動を発表されました。

最初アダプテッドスポーツとは?と聞きなれない言葉でしたが、どんな人でも一緒に活動することで、社会全体の理解が深まり全ての人々が尊重され、共に楽しむことが出来る...ということなのかなと思います。発表者の中にパラアイスホッケーに出場された方で、アダプテッドスポーツの普及には行政・地域住民・学校といった多様な連携が不可欠でスポーツ推進委員が果たす役割は大きいと仰っています。まず私たちがいろいろな所へ行きパラスポーツの体験に参加したりしてどのように活動しているか学ぶところから始めないといけないと。あと、レクリエーションの方向性、スポーツで人を繋ぐTUNAGE!プロジェクトを発表して下さった県レクリエーション協会会長様。最後に須坂エクササイズの方々と一緒に会場全員で体を動かしました。

本当に充実した研究協議会でした。社会教育委員になったときに、共に育つという目標を立ててここまでやってきました。いろいろな方のお話を聞きこの体験を、身近な地域の方々と一緒に体験したりしていける環境を作っていけるよう、今後も出来る事をやっていけたらいいと思います。そしてこれからも、健康で活動が出来るよう、日々努力してまいります。



「須坂人権のまちづくり推進会議に参加して」

須坂市社会教育委員 嶋倉 徳子

「人権のまちづくり推進会議」は、須坂市における部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくして、市民一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりの推進を図ることを目的とし、目的達成のため次の事業を行います。1. 構成機関、団体における人権・同和教育の推進 2. 市民への啓発事業の実施 3. 相互の連絡調整と情報交換 4. 目的達成に必要な調査研究 5. その他必要な事業、この会は、須坂市の関係機関、団体をもって組織されていて、会長、副会長、理事、監事を置き、生涯学習部会、企業部

会、地域部会、福祉部会とあり、私（社会教育委員）は生涯学習部会に所属しています。2025 年度は、さまざまな人権課題の学習を継続し、「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集会」や「人権教育講座」の開催等を通じて多くの市民が人権問題を自らの課題として受け止め人権が尊重されるまちづくりを推進し活動しました。主な事業として、年3回「人権教育講座」を開催。第1回「児童相談所の業務について～子ども権利擁護を中心に～」と題し、講師に長野県中央児童相談所、児童福祉専門員より、児童虐待、子どもの権利、里親、養育里親等、講演いただきました。第2回「私にとって部落とは」と題し、千曲市中学校教諭より、「小さいころ、解放子ども会、あなたにとって部落とは？私にとって部落とは？」の講演をいただきました。第3回「インターネットによる人権問題を考える～大切なのは人とのかかわりのあり方～」と題し、長野県人権啓発センター人権啓発相談員より、暮らしとインターネット、インターネットの問題、ネットの仕組みとリスク、正しい付き合い方～大切なのはやっぱり人とのかかわり～ネットを怖がらず正しく使う力をつけることについて、講演いただきました。啓発活動では、「人間を大切にす明るい社会を目指して」の発行や標語・ポスターの募集、優秀作品の印刷・配布。他、研修会等への参加をしました。一番大きな事業は、市民への啓発活動として「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集会」を実施し、標語・ポスター最優秀作品を表彰しました。表彰作品をご紹介します。「人にはね その人だけのよさがある」「どの人もみんな誰かの宝物」ポスターの部では「ぼくはぼく」が表彰されました。学びでは「ふれ合い学び合い 認め合い～自分も友達も大切にできるように～」小学校児童・PTA の皆さんが発表してくださいました。講演会は、「多様性と助け合いの社会を知ろう～きみはきみのままでいいんだよ～」の題で長野県ヘルプマークディレクターの猪又竜さん、井出今日我さんに講演いただきました。他スローガン確認、部落解放・人権尊重都市宣言朗読等、人権が沢山詰まった大集会でした。須坂市人権のまちづくり推進会議に携わることで、多種多様な人権問題がある事を知り解決のために行動する事の大切さに気づかせていただいています。これからもこの活動を市民の皆様にご周知していきたいと思ひます。



③ 中野市

中野市社会教育委員について

1 委員の構成

学校教育関係者 1名 社会教育関係者 4名 家庭教育関係者 1名

識見を有する者 2名 公募委員 2名 合計 10名

・任期は、令和7年5月1日から令和9年4月30日までの2年間

2 令和7年度中野市社会教育並びに生涯学習活動実績

・中野市社会教育委員会議 2回(5月、3月(予定))

・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会 参加

・長野県社会教育委員連絡協議会総会 参加

・長野県社会教育研究大会 参加

・地域ぐるみの共育フォーラム兼北信地区社会教育研究大会 参加

3 活動報告

今年度の社会教育委員の活動を振り返って

～保護者の目線より 学校部活動の地域移行に寄せて～

中野市社会教育委員 西山真希

今年度より社会教育委員として、任を賜り活動させていただきました。と言いましたが、実際は中学生一人・小学生二人の子育てをしながら、正社員として働いており、社会教育委員としての活動はほとんど出来ませんでした。そのような中でも、できる限り活動に参加し、様々なことを経験し、学ぶことができたと思います。貴重な体験ができました。

一年間ありがとうございました。

皆さま『学校部活動の地域移行』という取り組みをご存じでしょうか。

今まで学校で行っていた部活動を、段階的に地域クラブ等へ移行し、最終的には学校での部活動を廃止、地域クラブなどで活動するというものです。

背景には、少子化による部員不足や教員の働き方改革などがあるようです。

この取り組みを知ったとき、とても強い衝撃を受けました。それは、学生生活の楽しみの一つでもある部活動への参加ができなくなる・参加することのハードルがあがってしまうのではないかと思ったからです。その理由は、いくつかありますが、保護者の立場からすると、以下の2点が特に気になりました。

1. 部活動へ参加するきっかけがなくなってしまうのではないか

学校主体の場合は、活動を校内で見学・体験することができ、知らない競技・活動に直接触れることができた。

→強制的な部分もあるが、友人と一緒に参加できる点は良かったのではないかと思う。

地域移行になった場合

個々に様々なイベント等に参加し、活動に参加しなければならないため、運動をする機会や文化活動に触れる機会が減ってしまうのではないかと。

イベントの告知等に、保護者が関心を持てるような工夫が必要と感じる。

2. 保護者の負担増について

放課後の部活動では、送迎の必要がなく、学校が終わった後そのまま活動ができた。

地域移行になった場合

地域スポーツクラブの活動場所までの、送迎が必要となる。

クラブ活動の開始時間も18時～など、帰宅後に送迎しなければならない場合、就労している保護者にとっては大変な負担となる。子供が複数いる場合はさらに負担増となる。

上記以外にも、まだまだ不安な事はたくさんあります。

この一年、社会教育委員として『地域・人・かかわりを求めて』という活動方針のもと様々なことを学び、考える機会がありました。非力ではありますが、私にも何かできることがあるのではないかと考えています。

例えば、送迎について、学校間を行き来するスクールバスの運用はどうかと考えます。少子化に伴い、小学校が統合となっています。そのバスを利用し、部活動の移動に活用することができれば、保護者の負担は減るのではないかと思います。ほかにも、課題は山積みです。地域の活性化にもつながるような、アイデアや工夫を考えていければと思っています。

部活動地域移行の取り組みについて、運動部が注目されがちですが、文化部（吹奏楽部や合唱部・美術部など）は地域の方々の協力で、今まで以上に幅が広がるのではないかと考えています。年代の枠を超え、地域の方たちと一緒に活動できるようになれば、部活動の活性化だけでなく、地域の活性化にもつながるのではないかと思います。地域の方々にも、これまでの経験を活かし、新しい活動の場ができるきっかけになればいいなと思います。

来年も、この『学校部活動の地域移行』について、様々な情報を集め、子供たちと地域の方々の架け橋になるような活動に結びつけられるよう、活動していきたいと思っています。

④ 飯山市

1 社会教育委員会議の組織（構成）について

構成	人数	任期等	社会教育関係団体への参画
学校教育関係	1名	・2年任期の1年目 (令和7年4月1日～)	飯山市美術館運営委員会 1名 飯山市図書館協議会 1名 飯山市男女共同参画推進委員会 1名
社会教育関係	3名		
学識経験者	2名		
家庭教育	1名		
合計	7名		

2 本年度の活動

- ・社会教育委員会議 定例会 3回（5月・10月・2月）
- ・各種研究大会・研修会等への参加
- ・夏休み体験教室「正受庵体験教室」の開催（市公民館と共催）
- ・児童養護施設いいやま見学

「読み語り」「おでかけおはなし会」を続けるなかで

飯山市社会教育委員 柳 節子（えほんコミュニケーター）

社会教育委員になって、3年目になりました。私の日頃の活動について少し触れてみたいと思います。

始めに私が読み語りを始めたきっかけについてですが、12年前民生委員になって2年目の時に、地域にある常盤小学校当時の校長先生が民生委員会に来られ「常盤小学校の低学年の読み聞かせの方々はいらっしゃいますが、高学年を担当して下さる人がいないので是非お願いできないでしょうか？」という話をされました。その後、その時一緒に民生委員をやっていた方2人と、月2～3回を目安に小学校に足を運ぶようになりました。

担当の先生や校長先生、教頭先生などと連絡を取りながら行っているなかで、隣の戸狩小学校でもその希望が出され、常盤小学校の読み語りにかかわっている方々に加えて、新しい方にも声をかけて加わってもらい、戸狩小学校の読み語りにも参加するよう

になりました。

そして令和7年度からは、飯山市北部（常盤小学校、戸狩小学校含む）の4校の小学校が統合されて城北小学校が開校となりました。

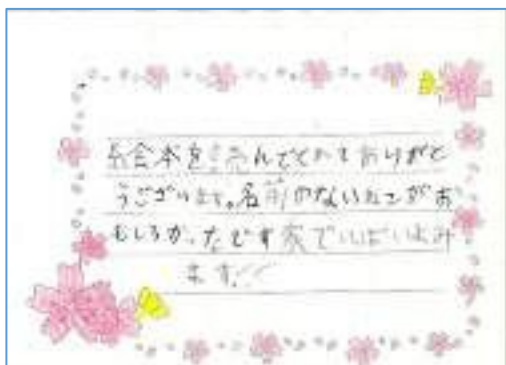
12名の読み読みの仲間で、月3～4回の読み読みのを行っています。

1年生～6年生まで12クラス約270名の児童の皆さんが在籍する城北小学校には「地域交流室」が設けられており、数名の担当の先生方がいらっしやいます。



読み語り当日の朝、その地域交流室に集まり、その日読む絵本や紙芝居の題名を記入し、終了後にその日の感想などを記入してきます。私は今年度年間20数回の参加になります。

先生方はいつも温かく迎えてくださり、「畑づくりや棚田でのお米作りなど他にも色々なことに関わっていただいています。地域の皆さんが学校に関わってくださることが大切で、子どもたちに多くの影響を与えています。」と話されています。



私は社会教育委員会の中では、図書館協議会委員を担当しています。

2024年度から飯山市では、広く市民の皆さんが絵本などとのふれあいの機会を増やしていこうと、「えほんコミュニケーター養成講座」を開催しました。絵本専門士の清泉大学短期大学部教授 塚原成幸先生をお迎えして5回の講座を持ちました。

私にとっては絵本や紙芝居の読み方など知りたかった事も多々あり、どの講座も興味深いものでした。その時一緒に講座を受けた方々は22名で、全員無事卒業しコミュニケ

ーターの資格をいただきました。その後も2期目の講座が開催され、19名の方が受講されました。

今年度私は、図書館での「おはなし会」や、夏には、高橋まゆみ人形館のそばにある蔵で怖いお話に限定した「おでかけおはなし会」で絵本を読んだり、「学びのエリア秋まつり」での絵本読み語りに参加しました。読み進めるなかでの子どもたちの表情を確かめながら、楽しい交流のひと時を過ごすことができました。

今後のなかでは、デイサービス事業所での絵本と紙芝居のおでかけおはなし会に参加予定となっています。定期的に、えほんコミュニケーターのフォローアップ講座も開催されていますので参加をしています。また、月ごとに出されている市報の中の図書館ニュースのページには、「えほんコミュニケーターおすすめの絵本紹介」の欄で、順番にコミュニケーターが毎月写真入りで絵本の紹介をします。私も原稿を執筆しました。

図書館の企画運営の中で、地域の子どもたちとのふれあいや交流が加速され、聴いている方も読んでいる方も楽しいと感じられる時間が増えていく中で、世代間や地域での交流も深まっていくのではないかと考えています。

今後も微力ですが、仲間の皆さんと自分自身も楽しみながら、地域とのかかわりを大切に活動していけたらと思っています。



⑤ 千曲市

1. 構成

委員の区分	人数（うち女性）	備 考
学 校 教 育	1名（0名）	校長会から選出
社 会 教 育	7名（3名）	地区から選出
学識経験者	2名（2名）	
合 計	10名（5名）	

2. 任 期

令和6年4月1日～令和8年3月31日

3. 令和7年度事業報告

事業名	実施期日・会場	内 容 等
第1回 社会教育委員会定例会	令和7年5月16日(金) 市役所 会議室 302	・令和7年度会議・活動計画について ・社会教育関連組織・予算について ・所管施設の事業計画について 他
第2回 社会教育委員会定例会	令和7年7月11日(金) 千曲市環境エネルギーセンター	・ReSPA シンコースポーツ（千曲市余熱利用施設）とちくま環境エネルギーセンターの視察研修
第3回 社会教育委員会定例会	令和7年10月17日(金) 市役所 会議室 302	・所管施設の上半期事業報告について
こどもひろば(図書館まつり)	令和7年10月25日(日) 信州の ^{めぐみ} 幸あんずホール	・異年齢の子供たちにけん玉やコマなどの昔遊びや折り紙を教える
千曲市成人式	令和8年1月11日(日) 信州の ^{めぐみ} 幸あんずホール	・共催並びに臨席
こどもひろば（千曲万博）	令和8年1月25日(日) 戸倉創造館	・異年齢の子供たちにけん玉やコマなどの昔遊びや折り紙を教える
第4回 社会教育委員会定例会	令和8年2月13日(金) 市役所 会議室 302	・令和8年度社会教育関連事業計画について

上記のほかに県・北信地区社会教育委員連絡協議会主催事業等へ参加。

社会教育委員として1年目は、委員の仕事として何をしたら良いのかわからず不安がありました。しかし、委員会や研修や大会に参加して感じたことは、委員の活動に定義はない。社会教育活動とは幅が広い活動なんだと思うようになりました。

1 地域活動を盛り上げ

私の地域は山間部で約40世帯程度の市内でも最小規模の漆原集落です。

当然人口が少なく高齢化地域です。

定期的に行っている活動は、一部の女性を中心としたサロン活動くらいのものでした。

そこで、この地区に人が集い活性化するにはと考えていたとき。

サロンが社協の共催で「お買物市場」を漆原で開きたいとの意思があると知り、私が社協役員もしていることもあり、地区でバックアップして盛り上げようと計画を立てました。

打合せの結果、実施は4月19日土曜日。公民館の内と外で行う。出店は10店くらい。

おやき、パン、豆腐、漬物、手芸、おもちゃ、駄菓子、味噌店ほかキッチンカーも依頼する。

パンフレットは注目を集めるため、キャッチコピーを「ウルシバーラ（漆原）お買物市場」と銘打ち盛り上げを図ることを提案しました。

飾り付けはサロンと小学生たちにお願ひし、更に公民館役員6名にも協力を求め、駐車場の確保、看板の作成設置、当日の誘導、机、いす、パラソル等提供など裏方の協力を確保しました。

当日は、地区外の人たちがどれほど来てもらえるか心配していましたが、「上山田良いとこ見つけ隊」のメンバーも応援に駆け付け、オープン前から次々に多くの人が集まり、中には「初めて来たが良いところだね」という人もいました。

普段はめったに顔を見ない高齢者から子供や地区外の人まで150名近いお客様が来て、商品は早くも売切れの店もでるほどで、大いに盛りあがりました。

当日はちょうど桜が満開の絶好の天気。桜の下で話も弾んで大成功の一日になりました。



(配布したパンフレット)



(公民館役員が駐車場看板を設置)

2 参加してもらえる計画の大切さ

今回の「ウルシバーラ（漆原）お買物市場」は、地区のサロンと社協の企画から発したのですが、社会教育委員として公民館役員にも働きかけ、子供たちも参加して、事前準備と当日の協力により予想を超える成果があり、多くの人から高評価を受けることができました。

上山田地区では最初の「お買物市場」で、サロン、社協、公民館を繋ぎ、まとめることがで

きたことで小さなコミュニティーの活性化のため、委員として少しでも役に立てたかと思
います。

人口減少、高齢化で何かと委縮しているこの頃ではありますが、皆が参加できるような企
画を立て実施することが大切であると感じました。



公民館内でのお買物風景



子供たち来客と飾り付け



桜の下で話が弾む



キッチンカーも人気

⑥ 坂城町

令和7年度社会教育委員情報誌原稿

今年一年を振り返って

坂城町社会教育委員 上野 敬一

坂城町では町の生涯学習計画について毎年度末に当年度の事業報告と次年度の事業計画について審議会が行われる。

この会議は生涯学習審議委員のほかに社会教育委員も加わり、それぞれが自身の経験や普段感じていることなどについて意見をのべることができる。そして、この審議会で確認された生涯学習の講座については「まなびの玉手箱」として冊子にまとめられ、全戸配布される。

受講希望者はこの「まなびの玉手箱」から受講講座を選び、受講することになる。

また、社会教育委員はいずれかの講座に参加することになっている。

今年の生涯学習では、戦後80年の年であることから、阿智村の「満蒙開拓平和祈念館」で平和学習や、上田市などの近在の戦争遺跡の見学会が計画された。

私は、阿智村の「満蒙開拓平和祈念館」での平和学習に参加することにした。というのも、私の父親が満蒙開拓団の一員であったからである。生存中の父から満蒙開拓団の話聞いたには1,2回程度だったと記憶している。

満州での生活についてはあまり話すことがなかった父であったが、満州から引き揚げてくる時の様子を聞いたことが記憶に残っている。

「逃げるに精一杯だった。とにかく逃げ回ってようやく日本に帰ることができた。」

父は、当時妻子がいたことは一言も話したことがないが、我が家の位牌には私の知らない名前があり、子どものころは、どんな因縁の位牌なのかと思っていた。

阿智村の「満蒙開拓平和祈念館」には開拓団員野名簿が備えてあるので、早速父の名前を見つけた。その欄には父の名前と、妻、子2名の名前と没年が記入してあった。

私は、父が引き上げてきて、再婚してからの子であり、聞いたことのない名前の位牌があることが不思議だったのである。

戦後生まれ、とりわけ昭和20年代前半に生まれた者には、直接の戦争体験はないものの、戦争被害からの復興や、引揚者から現地での生活の様子など見聞きする機会が多かった。

私が小学生のころ、上空に飛行機の爆音が聞こえると、不安げに空を見上げ、「もう空襲はないのだ」と言っていた人がいた。

戦後80年の今の時代にこんな話をしても理解してくれる人がどれだけいるのかわからないが、戦後生まれであっても、自分が幼いころに感じた気持ちを伝えていきたいと思う。

私の家のすぐ傍に、南条記念公園がある。この公園は過去の戦争で犠牲になった兵隊の慰

霊碑であるが、いまは慰霊祭も行われなくなった。

この慰霊碑を「戦争遺跡」とするには無理があると思うが、これからの平和学習に生かす方法はないだろうか。

ここはかつて桜の名所であり、遺族会や地域の高齢者がぼんぼりを設置するなどして管理されてきた。これからの管理をどうしたらよいか、みんなの知恵を集めることにしたい。

< 小学校のボランティア活動 >

私たちの地区は南条小学校の通学区である。この学校では坂城町の教育グランドデザインである「坂城の子は坂城で育てる」をスローガンに、多くの地域の皆さんがボランティア活動に参加している。南条小学校では「南条応援団」の名称で活動が行われている。私はその活動の一つである花壇の整備（花の苗の植え付け、除草作業）に昨年引き続き参加した。ほかのボランティアの皆さんと月2回程度、毎回1時間程度の作業である。

下校の時間帯の作業であるので、まだ子供たちが校庭にいたりして、時々子どもたちと話をしたりする。早く子供たちに顔を覚えてもらいたいと思う。

< 新地を元気にする会 >

私の住んでいる地区では数年前まではシニアクラブの活動が活発であった。毎月の定例会に始まり、季節ごとに様々な活動が行われていた。ところが数年前から会は「休会」となったままである。一番の原因は役員のみ手がないということであった。それまで車の運転ができ、町の行事や会議にも参加できていたのが、免許証の返納や健康上の理由で役員の継続が難しくなっているのが実情である。

「これまで会員だった皆さんの顔が見たい。」「お楽しみ会やカラオケ大会をやりたい」などの声が聞こえてきた。

また、地区で一番人が集まり、高齢者から小さい子供までが楽しんだ「夏祭り」がコロナ禍で中断して久しい。ただ、小学生の子どもたちを中心にした育成会の行事だけになってしまった。

これまで自治会が計画してきた事業だが、毎年役員が改選され、またコロナ禍での事業中止などの経過もあって、いままでの事業が継続できていない。

この夏祭りを何とか復活しようと、元区長の仲間が集まり「新地を元気にする会」を立ち上げた。

まず、夏祭りの復活である。資金を確保するため、地区の有志に呼びかけを行った。そしてボランティアの確保にも目途がついた。

8月14日夏祭りの当日、浴衣を着た女の子や、孫の手を引いてやってきたおじいさんやおばあさん。早速屋台の「焼きそば」や「かき氷」の前に列をつくる。最後は「花火大会」で夏祭りは終わったが、みんな終始和やかな雰囲気であった。参加者は120名を超えた。「来年もやります！」と来年の再開を宣言して「夏祭り」を終えた。

さて、シニアクラブの「お楽しみ会」であるが、こちらは11月に開催することになった。これはシニアクラブの会員に限らず地区の皆さんを対象にした企画として「新地歌声音楽会」として開催した。以前からシニアクラブと交流のある音楽グループの「仲よしクラブ」などの皆さんも

参加してくれることになった。まだ準備不足の感があったが、「みんなに行き会えた。」「楽しみにしていた。」の声も聴かれた。

参加者が少なかったことは反省点であるが、事前の周知方法も含めて改善しなければと感じている。

また、この活動がシニアクラブの再編とするか、またはシニアクラブも含めた新たな形態（例えば地区住民を対象とした）とするのか、さらに検討すべき課題である。

<夏休みのラジオ体操・小学校の資源回収>

小学校の夏休みの数日間、子どもたちは地区ごとに朝ラジオ体操をすることになっているが保護者で対応できないこともあるので、ラジオ体操を中止したらどうかという声があることを聞き、昨年「元気にする会」のメンバーでお手伝いすることにした。地域では子供たちと接する数少ない機会である。

また、小学校のPTAの事業である「資源回収」も大変な労力が必要であり、負担が大きいことが課題であった。

この事業にも協力者として「元気にする会」のメンバーが参加している。

それぞれが「縦」の関係で動くことが多いのだが、視点を「横」にすることで様々な課題が見えてくるのではないかと感じている。

以上

⑦ 小布施町

1 社会教育委員会の組織や活動について

(1) 社会教育委員の構成

- ・学校教育関係者 1 名 ・社会教育関係者 3 名
- ・家庭教育関係者 1 名 ・学識関係者 1 名 合計 6 名

(2) 任期 令和6年4月1日 ~ 令和8年3月31日

(3) 活動実績 社会教育委員会議 年3回 (4月・9月・2月)

各種研究大会・研修会への参加
子ども教室 田植え(6月) 夏のキャンプ(7月) 通学合宿(9月)
稲刈り・脱穀(9月) もちつき(12月)への協力

2 今年度の社会教育委員の活動を振り返って

「小布施子ども教室」に参加して

小布施町社会教育委員 飯田 岩雄

小布施町は、「豊かな心、未来を拓く子どもたちを育てる」を目的に「子ども教室」があり、仲間との絆を深め自主性・協調性などを養うため、年間通じた体験活動を行います。

年間通じて多くの活動がある中で二つの活動を紹介させていただきます。

まず「田植え、稲刈り」体験です。

子どもたちの生活の知恵と伝統的な年中行事を継承するために、毎年体験活動として6月に田植え、10月に稲刈り、12月には年末の餅つきを行います。

今年も初めて田んぼに入る子どもたちは、泥の感触に驚き泥んこになりながらも友だちと声を掛け合いながら一生懸命植えました。終えた後の田んぼを見て忘れられない景色に見えたようです。そして秋の稲刈りでは、自分たちが植えた稲が大きく実ったことに感動し、「こんなにお米ができた」「がんばってよかった」と、収穫の喜びを感じる姿が見られました。



春の田植え、秋の稲刈りを通して食べ物ができるまでの大変さや、自然の恵みへの感謝の気持ちも育まれたように思います。そして年末の餅つきでは、皆で交代しながら力いっぱい杵を振り下ろし、つきあがった餅を見て笑顔があふれていました。出来上がった餅をお母さんたちが”あんこ、きな粉”で餅を丸めてもらっている間、子どもたちは杵、臼などの用具を寒い中で手を真っ赤にして洗い片づけをしましたが、その姿を見て作業の終わりまで気を抜かない姿勢に深い感動を覚えました。子どもたちが自分の手で育て、収穫したお米が餅になったことで達成感と収穫の喜びを深く感じる事ができたと思います。

次に「通学合宿」です。

この通学合宿は、4年生から6年生を対象に20名ほどの参加で9月21日から26日までの5泊6日間上松川コミュニティセンターにて実施し、子どもたちが集団生活を通して基本的な生活習慣を身につけるとともに、思いやりの気持ちを育むことを目的として行われました。

一日の生活は、朝食当番の子どもたちが朝6時に起床し朝食の準備から始まり、朝食後は普段どおり学校へ登校し、下校後は宿題を済ませてから夕食の準備に取り組みます。調理や準備の場面では、OB・OGや地域の方々が見守り役として関わり、必要に応じて助言を行いました。直接手を貸すことはせず、子どもたち自身で考え行動することを大切にしました。夕食後は全員で後片付けを行いその後、近隣の温泉へ移動して入浴します。入浴時には、OB・OG、地域の方々、役場関係者が同行し、入浴マナーの指導や夜道の安全確保に努めました。



一日の締めくくりとして、毎晩「今日できたこと」「できなかったこと」について振り返りを行い、今後できるようにしたい目標を話し合いました。自分の行動を言葉にして振り返ることで、次の日の生活に生かそうとする姿勢が育まれていったように思いました。

参加してみて感じたことは、子どもたち個々の目標として「集団生活の中で必要な掃除や食事の準備・片付けなどを進んでできるようになること」、そして「周囲の人を思いやる気持ちを持てるようになること」を掲げていた中で、合宿当初は指示を待つ姿や戸惑いが見られる場面もありましたが日を重ねるにつれて自分から役割を見つけて行動する姿が多く見られるようになり、日々成長していくことに感動を覚えました。

更に、通学合宿を通して子どもたちは集団生活の大変さや責任を実感すると同時に、仲間と協力することの大切さや、相手を思いやる気持ちを学ぶ貴重な経験となったと思います。今後の学校生活や日常生活の中でも、この合宿での学びが生かされることを期待しています。



社会教育委員として参加させていただきましたが、子どもたちから刺激をもらい教えられることが多々ありました。この学びを広げ多くの子供たちが自主的に行動することができるように見守っていきたいと思います。

地域の温もりの中で育つ通学合宿の学び

小布施町社会教育委員 新井 重則

小布施町の子ども教室で行われている通学合宿は、子どもたちが一定期間、家を離れ、異年齢の仲間と衣食住を共にしながら学校に通うという取り組みです。今年度は、小学校4年生から6年生までの16名が参加し、9月21日から26日までの5泊6日、上松川コミュニティセンターを拠点に実施されました。

合宿生活では、食事づくりや後片付け、掃除、布団敷き、次の日の学校準備など、日常生活に必要なことをすべて子どもたち自身が行います。



朝食当番の子どもたちは早朝 6 時に起床し、仲間のために準備を進めます。下校後は宿題を終え、夕食づくりに取り組み、夜は近くの温泉までみんなで歩いて行きます。大人は指示を出す存在ではなく、子どもたちの様子を見守りながら、困ったときに寄り添い、一緒に考える立場を大切にしています。

合宿初日には、子どもたち自身が話し合っただけで一週間の目標や生活の約束、役割分担が発表され、それらを掲示して生活が始まりました。実際の生活では、準備段階では想定していなかった出来事も多く起こり、最初の数日はうまくいかないことや反省点が目立ちました。しかし、その一つ一つを振り返り、6 年生を中心に「どうすればよいか」を話し合いながら生活を整えていく姿が見られました。日を重ねるごとに、互いに声を掛け合い、時間を意識し、周囲を見て行動する姿へと変わっていったことがとても印象的でした。

私自身、夕食後の片付けの様子を見て、強い感動を覚えました。食器下げや洗い物、机拭きや掃除などを、誰かに言われる前に子どもたちが次々と見つけて動いていくのです。指示を待つ姿はほとんどなく、「自分にできることは何か」を考えて行動している姿に、通学合宿が子どもたちの自立心を確かに育てていることを実感しました。

合宿後の子どもたちの感想からも、その成長がはっきりと伝わってきます。「親と離れて生活するのは不安だったが、だんだん楽しくなった」「お父さんやお母さんの大変さが分かり、家でも手伝いたいと思った」「時間を意識して行動することの大切さを学んだ」「仲間に声を掛けることが増えた」「6 年生としてリードする立場になり、周りを見るようになった」など、一人一人が自分自身の変化を言葉にしていました。特に、異年齢で生活する中で、憧れの先輩の姿を追い、自分も近づこうと努力する姿や、仲間と本音で語り合える関係が生まれたことは、何よりの成果だと感じます。

この通学合宿が実現している背景には、多くの地域の皆様の存在があります。食材の差し入れ、調理の見守りや助言、温泉への引率、夜道での安全確保、一緒に寝泊まりをしながらの見守り、温かな声かけや励まし。どれも子どもたちの成長を願う思いがあってこそ成り立つ支えです。子どもたち自身も、「支えてもらうことは当たり前ではない」「自分たちのために力を貸してくださっている」と感じ、その思いに応えようと行動しようとする姿が見られました。



通学合宿は、子どもたちにとって大きな自信と学びを与えると同時に、地域と

子どもをつなぐ大切な場でもあります。子どもたちの成長を地域全体で喜び、見守る小布施町の温かな人と人とのつながりを、これからも大切に受け継いでいきたいものです。この合宿に関わり運営して下さった皆様、地域の皆様、すべての皆様に、心から感謝申し上げます。

「おぶせっこ食堂」について

小布施町社会教育委員 久保田 智子

私は小布施に住んで21年、様々なボランティア活動に参加して、地域の方々に支えられて生活してきました。社会教育委員になり2年が過ぎます。ここでは、「おぶせっこ食堂」の応援隊の活動についてお伝えしたいと思います。

おぶせっこ食堂は、2018年7月に、子どもの居場所づくりを目的に仲間と立ち上げました。毎月第4水曜日に北斎ホール講習室に集まり、下校時から午後6時まで、室内や近所の神社で活動しています。子ども達は、宿題をしたり神社で遊んだり調理のお手伝いをして過ごします。地域の大人たちで構成する応援隊は、見守ったり一緒に遊んだり話し相手になったりします。調理室では応援隊中心に、県や企業、地元の方々から寄付頂いた食材を使い夕食を作り、子ども達に食べたり持ち帰ってもらったりしています。



地域の子どもと大人の異年齢交流を大切に、子ども達の様子を応援隊で共有しながら、子どもたちがホッとできる居場所づくりを心がけています。地域の大人と顔見知りになることで、食堂の時には調理している所に話しに来てくれたり、町中で会って声を掛けられたりすることも増えました。6年間継続して来てくれている子どもさんも居て成長に驚かされます。

近年の物価上昇で県や企業、町からの食材寄付や助成金は、とても助かっています。さらに地元の方々からのお米やお野菜の寄付もとてもありがたいです。これらをこれからも無駄にしない様、使わせて頂きます。応援隊のメンバーは仕事をしている方も多く、活動日を増やすことはなかなか難しいですが、これからも「おぶせっこ食堂」を続けていきたいと思ひます。



⑧ 高山村

令和7年度社会教育委員の活動紹介

高山村社会教育委員会事務局 荒井 寛巳

○構成 学校教育関係者 1名 スポーツ関係者 2名 文化関係者 1名
家庭教育関係者 2名 共育コーディネーター 1名 計7名(うち女性2名)

○任期 令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間

○活動報告

◆高山村社会教育委員会議(定例会 5月・11月)

5月に第1回の定例会を開催し、今年度の生涯学習事業計画や行事を確認する。

11月に第2回の定例会を開催し、今年度生涯学習計画の反省、来年度の計画目標を話し合いました。

◆高山村教育委員との合同研修会(11月28日)

合同研修会(当番:社会教育委員)では、高山村教育委員・社会教育委員の合同研修会が行われました。

今回の研修では、善光寺大本願乳児院と里親支援センター「ともに」を視察させていただきました。

善光寺大本願乳児院は、様々な事情によって保護者の養育を受けられない乳幼児 24時間 365日にわたり専門スタッフが養育する児童福祉施設です。近年では周辺地域の子育て支援にも力を入れているそうです。

里親支援センター「ともに」は、令和7年4月に長野県から認可を受け、一定期間の養育を行う養育里親制度の相談や支援を目的とする施設です。今回の研修では、実際に、養育里親として子どもを預かるご家族の日々の様子を動画で見ながら、スタッフの方から養育里親の説明・実情を教えてくださいました。

「養育里親」という制度があまり知られていないことが現在の課題であり、これからも多くの子どもが家庭での教育を受けられるよう、情報を発信してサポートしていきたいと話されていました。

※里親の種類には、「養育里親」「専門里親」「養子縁組里親」「親族里親」があります。



◆改修工事中の高山村公民館が完成間近に

昨年4月から始まった公民館の改修工事も1月末現在で8割が進み、完成間近となりました。当初の計画どおり2月末で工事が終了する予定で、順調に進んでいます。

外観の足場が外れると白を基調とした外壁が姿を現しました。各階居室の工事も進み、細かな造作に入っています。1階、2階では日差しを多く取り入れ全体的に明るい色調でまとめています。この情報誌が発行される頃には什器が搬入され3月29日(日)から村民の学びの拠点施設として利用再開する予定です。



1階東側玄関 新しい公民館は、随所にユニバーサルデザインに基づくバリアフリー化を意識した構造になっています。東側玄関右側には、新たにピロティ(通路)が設けられ、車椅子の方でも安心して入館できるようになっています。



1階図書室 それまで室内を分けていた壁を一部取り除くとともに、本棚を低くすることで、日差しが部屋いっぱいに入るようになり、全体的に明るくなりました。柱の周りの円形の本棚は中と外側に本が並べられます。奥にリラックススペースとしての小上がりがあります。

⑨ 山ノ内町

○社会教育委員の構成 7名

・社会教育関係者 3名 ・学校関係者 1名

・学識経験者 2名 ・議会 1名

※任期:令和7年6月1日~令和9年5月31日(2年間)

夏休みたいけん教室

令和7年8月5日に「夏休みたいけん教室」を開催しました。この教室では、毎年のように全国各地で発生する自然災害によりライフラインが断絶した事態を想定し、次世代の地域を担う子どもたちが防災の知識を実践的に学び、日常生活や非常時に応用できる「生きる知恵」を身につけること、そして地域の自然を大切にする心を育むとともに地域を知るきっかけになることを目的としています。

当日は、町内の小学生と保護者が参加し、はじめの会での自己紹介を通じて交流を深めた後、4つの体験を行いました。

① 地域にある楽しい場所に行ってみよう

最初に行われた地域散策では、横倉地区にある地域住民が制作したベンチやオブジェを見学しました。地域散策を通して、地域の文化や自然を感じる機会となりました。



② 防災グッズを手作りしよう

続く防災グッズ作りでは、新聞紙を活用したスリッパやクッション、段ボールを用いた簡易トイレのほか、牛乳パックのスプーンやペットボトルランタンを制作しました。これらの活動を通じ、新聞紙が持つ保温効果や消臭効果を学び、身近な素材を工夫して活用する発想力を養いました。



③ 災害時のご飯作り

昼食の時間には、災害時に貴重となる水を節約し、洗い物を最小限にできるポリ袋を利用した湯せん調理を行いました。また、提供されたアルファ米の試食も行い、とても美味しいと好評でした。災害時のご飯作りを通じ、限られた条件下でも温かく美味しい食事ができることを実感しました。



④ 防災と防犯のお話

午後は、町危機管理課の職員から、能登半島地震でも使用された避難所用テントの体験や家具の固定に関する講話を受けたほか、留守番時の安全を守る合言葉「いいゆだな」「い:いえのカギを見せない」「い:いえのまわりをよく見る」「ゆ:ゆうびんポストをチェック」「だ:だれもいなくてももたないま」「な:なかに入ったらすぐ戸じまり」を通じた防犯指導も行われ、専門的な視点から防災・防犯への意識を高めました。



参加した子どもたちからは、「身近なもので色々な道具が作れることが分かった」といった学びの声や、「ランタンなどはキャンプの時にも使えるから家でも作りたい」といった前向きな感想も多く、非常時だけでなく日常生活でも応用できる知識を学ぶ機会となりました。

今回の体験が子どもたちの記憶に残り、非常時の備えや自然を大切に、地域を知るきっかけになることを期待するとともに、今後も子どもたちが楽しく学べるような活動を続けていこうと思います。

長野県中野立志館高校3学年探求ウィーク「須賀川の盆じゃもの体験」

令和7年11月12日に中野立志館館校3学年探究ウィークの一環で、山ノ内町の無形民俗文化財である「須賀川の盆じゃもの」の体験を行いました。この探求ウィークは、北信州各地の魅力を知り、地域の特性を捉え、地域への理解を深めると共に、自身の探求心を奮い立たせることを目的としています。

当日は、「須賀川の盆じゃもの」保存会の指導のもと、中野立志館高校の生徒たちが体験を行いました。

① 「須賀川の盆じゃもの」の歴史

初めに、保存会の代表者より「須賀川の盆じゃもの」の歴史について、教えていただきました。

「須賀川の盆じゃもの」は弘化4年(1847年)の善光寺地震で倒壊した興善寺の再建を目的に、当時の住職・釈教順が普及させた盆踊り「興善寺盆じゃもの」が由来となっています。かつては夜店が立ち並び、老若男女が夜通し踊り明かすほど盛大で、男女の出会いの場でもありました。以降、この盆踊りは地元住民らにより脈々と受け継がれ、平成5年(1993年)に町の無形民俗文化財に指定されました。かつては北信各地にありましたが、現在は須賀川地区や木島平村など一部にのみ残る非常に貴重なものです。

② 「須賀川の盆じゃもの」体験

保存会の指導のもと、実際に伝統的な衣装(着物)を着用して盆踊りに挑戦しました。歌詞に合わせてながら踊り、文化の奥深さを肌で感じる機会となりました。



今回参加した学生たちからは「着物が思ったより動きづらかった」「草履が滑り動きづらい」といった声のほかに「着物を着て踊るほうが、気分が上がって楽しかった」「振付を覚えるのが簡単だった」という感想も多くいただきました。

今回の体験を通じ、地域への理解を深めると共に、地域の伝統文化に触れる楽しさを学ぶ機会となりました。今回のように地域の伝統文化を楽しく学び、継承につながるような活動を今後も続けていこうと思います。

また、この経験が生涯学習・社会教育へつながる活動として地域の歴史を学ぶことでこれからの学習や生活の力となることを願っています。

⑩ 木島平村

1 社会教育委員の構成

委員5人(社会教育関係者3人、家庭教育関係者2人) 任期2年

2 活動について

月/日(曜日)	会議名	会場	内容
4/21(月)	第1回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	農村交流館	※公民館合同会議 ①令和7年度活動計画について ほか
中止	第2回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	役場会議室	※教育委員との合同会議 ①教育委員会への提言について ほか
3/下旬	第3回社会教育委員の会 (兼公民館運営審議会)	農村交流館	① 令和8年度事業計画について ② 令和8年度社会教育登録団体審査

○ 学校運営協議会

- 第1回 5/12 令和7年度事業計画
- 第2回 7/30 C・S研修会 in 木島平内容検討
- 第3回 9/18 C・S研修会 in 木島平の反省会
- 第4回 12/16 小中学校の自己評価
- 第5回 3/5 活動報告

○ コミュニティ・スクール推進委員会

- 第1回 5/15 第4回 8/28 第7回 12/4 第10回 3/25
- 第2回 6/19 第5回 9/11 第8回 1/22
- 第3回 7/10 第6回 10/16 第9回 2/12

○ 8月30日 第14回コミュニティ・スクール研修会 in 木島平

○ 令和7年度の新たな活動

- 郷土愛を育む社会教育活動の一環として、「さつまいも苗植え及び収穫体験会」を実施した。
- ・6/8 さつまいも苗植え体験会 参加者数:小学生他23人
- ・10/11 さつまいも収穫体験会 参加者数:小学生他20人

3 活動の成果と課題

◆全体活動について

昨年度の反省を踏まえ「さつまいも苗植え及び収穫体験会」を本会独自の活動として実施した。

◆実践(内容)について

昨年に引き続き小学校における「ふれあい体験活動」を実施したほか、ケヤキの森公園の杉林備を行い、自然環境を生かした子どもたちの新たな遊び場づくりに取り組んだ。これらの活動を通して多世代交流を促進し、地域に対する愛着と誇りを育むとともに、地域活動の活性化を図ることができた。

⑪ 野沢温泉村

野沢温泉村社会教育委員会の活動の様子及び実践事例

○社会教育委員会の組織

構成:7名(学識経験者:5名・学校教育関係者:2名)

任期:令和6年4月1日~令和8年3月31日(任期2年)

○令和7年度活動報告

【村事業】

・社会教育委員会

回数	開催期日	内容
第1回	4月21日(月)	社会教育関連新年度事業について 重点課題の調査・研究の内容について
第2回	9月4日(木)	重点課題の調査・研究
第3回	11月26日(水)	社会教育関連事業当年度報告

・研修視察:10月9日(木)~10日(金)

・野沢温泉学園運営協議会

・野沢温泉学園授業研究会

【会議及び大会参加】

・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会(小布施町公民館)

・CSに関わる地域行政のためのスキルアップ研修会(県立長野図書館)

・長野県社会教育委員連絡協議会総会(オンライン)

・長野県社会教育研究大会(長野県総合教育センター)

・地域ぐるみの共育フォーラム(中野市豊田文化センター)

○実践事例

【今年度の社会教育委員の活動を振り返って】

野沢温泉村社会教育委員 池田 順子

令和6年4月に社会教育委員を拝命しました。

2年間の活動を通してフォーラムや人権研修会等で、今まであまり関わってこなかった分野のお話を聞く機会をいただきました。

村内の活動では、野沢温泉村の歴史や旧跡について学ばせていただきました。地方から嫁いできて村の歴史に明るくない私にはとても実り多い時間でした。

昨年(令和6年)の11月1日に行われた「地域ぐるみの共育フォーラム」の山崎浩さんの講演会に参加しまし

た。山崎さん作の「ありがとう ころをこめて」で卒園式に号泣した親御さんも多いのではないのでしょうか。私ももちろんその一人です。「音楽でつなぐ絆」をテーマに歌や映像を交えてのお話は楽しく、1時間45分があっという間に感じられるほどでした。山崎さんはのざわこども園の園歌を作られた方でもあります。私の子どもが在籍しているときに保育園からこども園となり、歌が作成されました。歌の途中にワーンと歓声をあげる部分が楽しく、園児もすぐに覚えて元気よく歌っていたのが印象に残っています。

私個人の活動としては、昨年から手話サークルに参加しています。仕事の接客等に活かされるかと軽い気持ちで始めてみました。このサークルは、公民館講座で実施された手話講座が始まりで、有志の方々がサークルに発展させていただきました。ろう者の方を講師にお招きして、ゲームを交えながら楽しく手話を学んでいます。手話のみならず、ろう者の様々なことを知ってほしいという講師の方の思いから、ろう者の日常やコミュニケーションの取り方、災害時の避難所での困りごとなどを映像を交えながら教えてくださいます。すぐ隣にある世界なのに、全く知らなかったことばかりで学びが多いです。なかなか指文字が覚えられず焦っていたところ「一生をかけてゆっくりやってみましょう」とお声がけいただきました。手話を学ぶのはもちろんのこと、ろう者の目線を知ることを楽しんでいきたいです。まずは指文字を覚えることを課題に、生涯を通して取り組んでいければと思います。

⑫ 信濃町

1 社会教育委員の構成

- ・ 委員の数 6名
- ・ 構成 地区公民館専門委員経験者 3名
その他教育関係者 2名
学校教育関係者 1名
- ・ 任期 2年(令和7年4月～令和9年3月)

2 活 動 報 告

- ・ 社会教育委員会議の開催(年3回)
- ・ 第8回通学合宿の開催(10/9～11、2泊3日)
- ・ 公民館職員との合同会議への参加(4月、7月、12月、3月)
- ・ 公民館事業への参加
- ・ 学校運営協議会への参加
- ・ 長野県社会教育委員連絡協議会総会への参加
- ・ 北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会への参加

○ 社会教育委員の声

信濃町社会教育委員 須坂 はるみ

あっという間に社会教育委員 2 期目となりました。公民館活動の経験も無く、町の情勢にもあまり関心を持たずにいた私は、研修会で報告される様々なエネルギー溢れる活動報告にとても驚きました。そして、この社会教育委員という役割は大変間口が広く、その個人の熱意によっていくらかでも深めることが可能な活動なのだと思います。知恵と力と時間を持ち寄って、高齢化の課題や子ども達の豊かな成長のため熱心に行動しておられる様子に、たくさんの刺激を受けました。

昨年、信濃町ではコロナ禍以降中断されていた通学合宿が 6 年ぶりに復活し、これから続く明るい道が開けたような気がします。通学合宿復活にあたり、コロナ禍前に町内にあった多くの組織やその組織から波及される繋がりがコロナ禍でほとんどなくなり、合宿の応援体制が見込めないことが課題となり、再開の決断に時間がかかっていた状況がありました。私自身もかなり不安が大きく、社会教育委員の一員として再開の提案をすることには迷いがありました。しかし、町の担当者の皆様をはじめ公民館の運営やサークル活動に携わる皆様の前向きな判断で準備が進み、計画どおりスムーズに通学合宿が行われました。スマホやゲームをする日常と異なり、友達とおしゃべりや調理をしたりする時間を経験することで、子ども達も貴重な楽しい時を過ごした三日間だったと思います。

当町に限らず少子化により地域から子どもの姿が遠くなり、子ども達の声が騒音に聞こえてしまうという大人も現れている現状は、とても悲しいことです。この通学合宿には多くの大人の協力が必要ですが参加する大人達も子どもと一緒にワクワク体験が出来る楽しい機会だと実感しました。こうした活動を通して老若男女を繋ぎ、地域のこどもに関心を持ってもらうことも社会教育委員の役割かなと思っています。

⑬ 飯綱町

○ 社会教育委員の構成について

学校教育1名、社会教育3名、学識経験4名の計8名で構成されています。

任期は令和6年4月1日から令和9年3月31日の3年となっています。

○ 社会教育委員の活動状況について

委員会は年6回開催し、各委員からの日頃の活動状況の報告や当面の課題について協議しています。また、公民館事業や生涯学習（文化財関係含む）関係事業に広く関わり、これら事業に対する助言・提案などを行っています。

今年度は、長野県社会教育研究大会の分科会で、委員の皆さんが実行委員として参加する通学合宿について発表の場をいただきました。

‘熱量がすごい’‘ボランティアの皆さんの苦勞がよくわかりました’‘素敵な取り組みですね’‘よくできましたね’‘続けることが大切’など様々なご意見をいただきました。

その通りです。通学合宿は実行委員の熱量があり、苦勞が多く、大変で、よくできたなと思っています。通学合宿のように地域の子どもを地域で育てることは、素敵な取り組みで、続けていくことが大切です。いつか良い結果につながることを想像しながら、今後も取り組みを続けて参ります。

○ 大会・研修会関係

- ・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会（小布施町公民館）
- ・CSに関わる地域・行政のためのスキルアップ研修会（県立長野図書館）
- ・長野県社会教育委員連絡協議会総会（オンライン参加）
- ・長野県社会教育研究大会（長野県総合教育センター）
- ・地域ぐるみの共育フォーラム（中野市豊田文化センター）ほか

自主制作ビデオドラマ奮闘記

飯綱町社会教育委員 小林 浩道

数年前から顔を合わすと「映画創ろう」という友人がいた。彼は、撮影機材に関して誰よりも豊富な知識と技術を持っている。「そうだね 何か創りましょう」という言葉が日常のあいさつとなっていた。

折しも、商業映画の製作現場を体験していたという地域おこし協力隊の青年と出会う。必然と意気投合し現実的な制作へのプランが作られた。さらに原動力となったのは高校生の息子だった。彼は学校の文化祭で10分程のショートムービーを創る。親バカだが、これがとても素晴らしい出来栄だった。脚本の段階から彼は頼もしい相棒となってくれた。

シナリオが仕上がると、まず頭を悩ますのは制作費。幸い町の「まちづくり活動支援事業」という補助金があり活用できた。飯綱町に残る伝説や伝承を基に練り上げたストーリーということで問題なく対象としていただいた。

次にキャストの問題。照れずに演技をしていただく方たちをお願いしていく。が、主要な人物はセリフが多く演技力も重要となる為なかなか人選に苦慮したが、タイミング良く移住されてきた劇団がありダメもとでお願いすると快く引き受けてくれた。作品を引き立たせる音楽についても、地元が誇る和太鼓のグループ「飯綱権現太鼓」の皆さんに全面的な協力を得ることができた。主人公の衣装は縫製にセンスのある高校生に、マスクはプロのダンボールアートの第一人者の方に、特撮パートに使用するジオラマなどは試行錯誤しながらみんなでコツコツ作り上げていった。

準備に半年かかりようやく撮影。念願のドラマ創りが始まった。「よーい ハイ!」でカチンコが鳴る。高揚が止まらない。どの撮影も灌溉深い。ロケ地はもちろん全て町内、又は所縁の地。クランクアップの撮影では下は園児から70代の方まで50人近いエキストラの参加する場面。11月の肌寒い日にもかかわらず、演者には夏の恰好をしてもらい望んでいた。ふるまいの豚汁が一段と温かく美味しかった。エキストラの皆さんの笑顔が忘れられない。

楽しかった撮影が終わると過酷な編集作業が待っていた。場面をつなげ、エフェクトをかけ、音を入れるという作業。テンポのつくり方ひとつで雰囲気が変わる。時には言い合いになることもありピリピリした空気が漂う。3日程徹夜が続く。なかなか納得いく形にならず焦るばかりで時間が過ぎていく。結局初上映開始時間の30分前にどうにか完成。通して確認しないままお客さんと一緒に初見という、ハラハラドキドキの初上映だった。

果たして感想は、悪くなかった。照れくさいほど評判が良かった。それから手直しをして2度ほど上映会を開いたが、どの会場でも「良かった」「感動した」という声がかうれしかった。

この作品のタイトルは「霊戦士イズナイザー」。どんなストーリーかというところ…持ち原稿がいっぱいとなりました。すみません。いつかどこかで機会をみつけて上映したいと思いますので、その時は是非ともご鑑賞いただければと思います。

1年間を振り返り

飯綱町社会教育委員 大川 千恵子

委員になって2年目の今年度は、牟礼村・三水村の合併20周年の記念の年で、いづな歴史ふれあい館のリニューアルオープンをはじめ多彩な事業が繰り広げられました。

私自身もワークショップに参加した町民会館図書室の移設工事、いづな愛の町民フェスティバル・ラントナイト、出張何でも鑑定団、合併20周年記念式典ふれあいコンサート、元なでしこジャパン澤穂希さん、鮫島彩さんを招いた町民講座、ゆかいな村のコンサート特別編、佐々秀美さんコンサート、町政20周年記念誌発行、LGBTQ 当事者の西村宏道さんを講師に男女共同参画推進フォーラム（私は受付係を担当しました）、小水力発電施設芋川用水発電所が発電を開始し、約72世帯分に相当する売電収入や非常時の電力供給、乗用車39台分の排出量に相当するCO2の削減等が期待されます。

また、例年通りの多種多様な講座などの事業は、飯綱大学が年14回、いづなカルチャー教室が17講座、文化協会は14団体が活動、いづなっ子くらぶが4講座、スポーツクラブやスポーツ協会はそれぞれ活動をおこないました。

そして、社会委教育委員が実行委員として参加した「通学合宿」は2年目となり三水小学校区、牟礼小学校区の2箇所て32名が参加。町の担当職員も2年目となり、子供やスタッフの安全管理、情報管理、

運営の問題点への気づきなど、スキルが身についてきたと思います。身についた「通学合宿のトリセツ」は人事異動の単なる引き継ぎ書に代わる1冊ができるのではないのでしょうか。

その他、委員会の会議資料を見ると、色々な催事があり学習があり‘あ’っという間の1年間でした。私の推薦母体である婦人会を活用することなく今年度も終わって行きます。

あと1年の任期の中で、次の委員候補に引き継ぐ社会教育委員の「トリセツ」はできるでしょうか。この活動報告も七転八倒、正しい表記ではない箇所などをご容赦の程お願い申し上げます。

⑭ 小川村

○構成 学識経験者 3名 学校教育関係者2名 計5名(うち女性 2名)

○任期 令和7年4月1日から令和8年3月31日までの2年間

今年度の活動を振り返って

小川村社会教育委員 下園千登世

移住者として20年目という、自分、家族の人生のなかの節目という機会に、社会教育委員の委嘱を承りました。移住する前は、都会の中心で、都市型生活・核家族といういわゆるステレオタイプの子育ての中、行政区による開かれた社会教育活動に参加・利用させていただくことにより、さまざまな子育ての問題を解決することができました。多くの講演会・講習会に参加・子育て自主サークルの結成・活動・講演会などのイベントの開催など、住民自らが集い、学び、つながるという社会教育の恩恵をあふれるほど受けたと感じております。

第二のふるさと小川村で、自身の社会教育とのかかわりの中で、社会教育といえば子育てと勝手に思い込んでおりましたが、1年の活動のまなびのなかで、小川村の教育振興基本計画の中にある「村民がつどう・まなぶ・むすぶ」場、世代を超えて生涯学び続けることができる場というものこそが、社会教育であると理解いたしました。1年目は、再び、自ら学ぶことの機会をいただけたことに感謝し、次年度は、学んだことをむすび・つなぐ方法を考えていきたいと思っております。

活動報告

*長野県社会教育研究大会

講師 小川幸司さん「いのちと対話する歴史～共に学ぶ学校教育・社会教育を目指して」

この講演は、歴史を検証する大変大きなテーマを扱うボリュームのある内容であり、学生時代のような学びの場に引き戻されたかのような感じでした。小川講師は自ら歴史の教科書を作成する立場にあり、その教科書がどのように現場で教えられ学ばれているか、ご自身で教育の現場に戻り生徒とともに歴史を体感できる方法を模索する授業をされています。講演の中では、松本サリン事件から、下伊那満州開拓団の集団自決など、長野県の歴史を検証することでより身近なものとして平和について学ぶというものでした。「社会は、自主性・対等性・公平性を大切にすまなびによって、自主的で対等で公平な人間同士のきずなが生み出されてゆく。このことは、学校教育と社会教育に共通しているのではないだろうか。」と、投げかけられました。多くの長野県民・教育現場にかかわる人々に届けたい小川講師の声でした。高齢化が進む小川村でも、戦争の時代を語れる人が少なくなりました。歴史を揺るがす身近な事件でさえも、風化してゆきます。学び、伝えることの大切さ、社会教育委員の責務を感じました。

*北信地区社会教育研究大会

講師 山崎浩さん「音楽でつなぐ絆～世代を超えて結ぶ「声」の力～」

声楽家・作曲家である山崎講師の演奏と体験を交えた講演会は会場を一つにまとめ、それぞれの心を揺り動かす、体感を通じてまなびを得る貴重な研修でした。「芸術とは人を幸せにする役割を持つもの、歌うことは他のどの芸術よりもハードルが低く、道具も、技法もいらない。今すぐにでも声を出

すことができる。歌うことは、呼吸が深くなり、リラックス状態になるため、気持ちが緩む。このリラックスが感動となり、周りの人も巻き込んでリラックスの状態が波及する。」苦しい状況に置かれている人ほど、自分を楽器とする簡単に体験でき、歌うという行為を、実践して欲しいをお話しされていました。介護の現場や、福祉の現場、子育ての現場など、人をケアする立場にいるひと、人を育てている立場のひとは、意識して自分がハッピーであるために、自分の心と体をケアしてほしい。そのための芸術＝音楽であると語られた言葉に、感動しました。

小川村では以前、熟年大学の取り組みとして指導して下さったとのことでした。老若男女、経験も、楽器もいない、誰でもできる取り組みとして、地域で、活用できる可能性を感じました。

＊それぞれの分科会について

地域の社会教育の在り方を、現場の声としてそれぞれの立場で発表されていました。主に、子どもの居場所作り、地域とのかかわりなどをテーマとしていました。少子化の影響は、社会のあらゆるところに表出していると感じる昨今ですが、社会教育委員それぞれが、子どもたちを地域とつなぎ、はぐくみ、社会に送り出す為に、全力で取り組む姿に、大変な熱量を感じ、社会教育が、地域の宝・社会の宝である子どもたちの未来を導く光になるように、私自身も、研鑽を重ねたいと思います。

＊令和7年度 小川村通学合宿 10月26日～28日(2泊3日)

家庭・学校を離れた団体生活の中から社会常識を学ばせるとともに自主性を育成し、世代間の育成をはかることを目的とし、昨年の1泊2日を1日増やし2泊3日、4学年から6学年9名で実施しました。



社会教育委員スタッフとして、入浴、夕食調理、レクリエーションなど見守り支援をしました。

実施前事前オリエンテーションにおいて班分けが行われ、子どもたちとのコミュニケーションが始まりました。合宿の前段階として、自分たちの食事を自分たちで作るために何が必要なのか、どうしたらよいのかという献立の話し合い。普段、困ることなく当たり前なこととしてある3度の食事。

子どもたちは、仲間とともに知恵を出し合い、仲間のそれぞれが納得のできる献立づくりをすることの難しさに、直面し、意見をまとめることが困難になりました。混乱している話し合いの中で、私から出した小さなヒントは、「献立を決める前に、好きとか嫌いではなく、食べると具合が悪くなるもの、アレルギーなど、みんなで聞いたり考えたりしてみは？」という提案です。

苦手なものはなにかを仲間に聞くことから、食べられないもの、アレルギーなども含めて、仲間が、気持ちよくおいしく食べられる献立づくりを見出していました。献立づくりがまとまるまでの議論は、社会性の学びとなったと思われます。好きだから、おいしいからなどという個人的な欲求ではなく、皆はどう感じるのか、思うのかという他者への配慮が見られました。

決められた時間内で調理するには、かなりハードルの高い献立になりましたが、どういうものを作りたいのか、その献立を完成させるには、どんな手順があるのか、合宿当日までに、下調べをすること、親に聞くことなど、たくさんのアイデアが生まれて献立ノートが埋まりました。献立を組み立てることにより、合宿までの家庭教育・学校教育の場の提供が想定されました。

見守り支援のなかで、子どもたちへの2つ目のヒントは、食べ物を大切にすることです。

材料の量、材料を余すところなく使い切るにはどうしたらよいか?と問いかけました。子たちは、食材を丁寧に扱い、キャベツの外葉なども無駄にせず利用しました。



後日、献立を決めてから、親が作り方を教えてくれた、親とともに何度も作ってみた、本で調べてみた、など子どもたちが話していました。これは、通学合宿の狙いでもある家庭教育への働きになったのではないのでしょうか。お父さんの得意料理は、ぎょうざなんだ!何度も作ったよ!と話す子どもの喜びに満ちた顔を見て、大変こちらも嬉しくなりました。

予想以上に時間のかかる献立ですが、他の班の力を借りれば何とかなることも、想定していましたが、果たしてそれを子どもたちが自ら踏み出せるか、見守りの中でも、かなり厳しい部分ではありましたが、班の仲間だけでなく、全体として調理を行うことに気づき、何人かの子どもは自ら声をかけて調理していました。最後には、全体で、調理する状況になり無事、献立を完成させていました。

献立を決めるまでの議論、家庭での予習、当日の完成した時の達成感、子どもたちの大人の予想を大きく上回るような行動力・実行力に、驚きました。

自ら考え行動する、仲間とつながり他者理解を深める、食べ物に感謝をするなど、多くの気づきと、成長が見られました。

また、このほかにも、子どもたちの可能性について、目の当たりのする機会がありました。公民館を通学合宿施設としているため、入浴については外部施設に送迎し見守る支援をする必要がありました。公民館から離れた山の上にある宿泊施設の風呂をお借りしていますが、車での移動ということもあり、当然、車酔いをする子どもにとっては、憂鬱な表情で乗り込んでいました。

車酔いしないために、窓を開ける、席を考えるなど、仲間でアイデアを出し合っていました。はっきりとしないため、「歌を歌うと酔わないよ。」と、働きかけてみたところ、はじめは疑心暗鬼ではありましたが、一人が歌いだすと、次から次へと、歌が続き、行きも帰りも歌声に包まれました。具合が悪くならないようにという思いやりと、仲間と声を合わせて歌う爽快感。子どもにしかできない行動でした。楽譜もなく、暗記した歌をそれぞれに。

よくよく聞くと、学校で合唱祭があり学年ごとに発表した後だったとのこと。

子どもは多くの可能性を含み、多くの能力を持ち、なんと、心が豊かなことか、その感性に感動しました。

通学合宿においては、ほかに、買い物や、食事の後のレクリエーション、宿題などの約束事など、子どもを見守る多くの地域住民やスタッフなど大人の協力により、無事に子どもたちをそれぞれのご家庭へお返しすることができました。

すべてのプログラムが、子どもの未知なる力を引き出し、可能性を伸ばすものであったと思います。私自身、子どもたちにかかわることで、豊かな社会教育の中に入り、自分の生涯教育ともなりました。通学合宿のねらいである「地域の子どもは地域で育む」ことは、こういうことなのかと、子どもたちに教えてもらいました。

少子高齢化が進む小川村のなかで、地域住民や、大人が、社会教育を通じて子どもたちの可能性や、子どもたちの持つエネルギーに触れることで、村の未来に展望が持てるのではないのでしょうか。子どもたちは、村の宝物、今後も、大切に见守りたいと思います。

⑮ 栄村

栄村社会教育委員

1 社会教育委員の組織

構成：学校教育関係者1名 社会教育関係者3名 計4名

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日 2年間

任務：公民館運営審議会委員及び文化会館運営協議会委員を兼ねる

2 活動内容

○村内活動

月日(曜日)	会議名	内容
5/12(月)	第1回委員会	令和7年度社会教育委員の活動計画 令和7年度生涯学習・公民館事業計画 文化会館改修計画・社会教育関係団体承認
11/11(火)	第2回委員会	令和7年度生涯学習・公民館事業経過報告 令和8年度生涯学習・公民館事業計画
3月下旬	第3回委員会	令和7年度生涯学習・公民館事業報告 令和8年度生涯学習・公民館事業計画

その他:第47回 栄村総合文化祭(10/25・26) 実行委員会 7/4・8/27・9/24

○村外活動

月日(曜日)	会議名	開催場所	備考
4/16(水)	第1回北社教委連理事会	長野合同庁舎別館	
5/20(火)	北社教委連総会・地区研修会	小布施町公民館	事務局のみ
6/19(火)	県社教委連総会	オンライン	
9/3(水)	第2回北社教委連理事会	野沢温泉村公民館	情報交換会
9/8(月)	県社教委研究大会	県総合教育センター	
11/1(土)	地域ぐるみの共育フォーラム	豊田文化センター	分科会記録
1/30(金)	第3回北社教委連理事会	オンライン	

3 今年度の社会教育委員の活動を振り返って (栄村社会教育委員 齋藤 保)

村の委員は、公民館運営審議会委員及び文化会館運営協議会委員を兼ねており、生涯学習事業や公民館事業の計画や予算編成等について協議・審議を行っています。

守備範囲が広いことから、委員として何をどうやっていいのかわからないというのが本音です。

各委員は、公私ともに多忙な方が多く、委員会はもちろん各種研修会等にも参加できないのが現状です。今年度末で2年間の任期が満了となりますが、家庭の事情などで「これを契機に再任を辞退したい」という声を持ち上がっています。

村の人口が少ないわりに各種の委員会が多く、個々の活動に専念したいことから、新たに委嘱されることについて、なかなか理解、了承していただけない状況です。

実際に自分も、地域の様々なイベント・交流会の開催に参画しながら、村の生涯学習・公民館事業に顔出しすらしておらず、反省ばかりです。研修会等での事例発表を聞いたときに、積極的に事業に参加し、行動を共に起こせるよう努めなければと痛感しております。

北信地区社会教育委員連絡協議会会則

- (名称) 第1条 本会は、長野県北信地区社会教育委員連絡協議会という。
- (組織) 第2条 本会は、北信地区市町村の社会教育委員をもって組織する。
- (目的) 第3条 本会は、北信地区の社会教育委員が相互に連絡提携し、その資質の向上を図り、北信地区の社会教育の振興発展に寄与することを目的とする。
- (事業) 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 社会教育に関する研修会等の開催 (2) 社会教育に関する情報交換
- (3) その他必要な事業
- (役員) 第5条 本会は、次の役員をおく。
- (1) 会長 1名 (2) 副会長 2名
- (3) 理事 若干名 (4) 監事 2名
- (役員を選出) 第6条 本会の役員は、次の方法により選出する。
- (1) 会長および副会長は、理事の互選とする。
- (2) 理事は、市町村の社会教育委員からそれぞれ1名(長野市は2名)を選出する。
- (3) 監事は、総会において選出する。
- (役員職務) 第7条 役員職務は、次のとおりとする。
- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。
- (4) 監事は、会計を監査し、その結果を総会に報告する。
- (役員任期) 第8条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期満了後でも後任者が決定するまでは、その職務を継続して行う。
- (顧問) 第9条 本会に顧問をおくことができる。
- 2 顧問は、理事会の推挙により会長が委嘱する。
- 3 顧問は、会長の諮問に応じ、意見を述べることができる。
- (総会) 第10条 総会は、会長が招集する。
- 2 定期総会は、年1回開催し、必要のある場合は臨時に開催することができる。
- 3 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 4 総会は、次の事項を審議し、決定する。
- (1) 事業計画および予算に関する事 (2) 事業報告および決算に関する事
- (3) 会則の変更に関する事 (4) その他必要な事項
- 5 総会の議長は、その都度決める。
- (理事会) 第11条 理事会は、必要により会長が招集する。
- 2 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 3 理事会は、会長が議長となり、次の事項を審議し、決定する。
- (1) 総会に付議すべき事項 (2) 重要な会務執行に関する事項
- (3) その他、会長が認めた事項
- (事務局) 第12条 本会の事務局は、北信教育事務所内におく。
- (経費) 第13条 本会の経費は、負担金、その他の収入をもってあてる。
- 2 負担金の額は、別に定めるところによる。
- (会計年度) 第14条 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

- 附則 この会則は、昭和61年5月28日から施行する。
- この会則は、平成8年5月23日から施行する。
- この会則は、平成21年7月16日から施行する。
- この会則は、令和7年5月21日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

令和7年度

北信地区社会教育委員名簿

令和7年度

○会長 羽田吉彦 ○副会長 小林京子 黒岩裕子 ○監事 齋藤保・小林悦夫

市町村	理事	委員					現在数
長野市	吉江速人 細尾裕子	吉江速人 込山令子	細尾裕子 篠崎正典	大橋あゆみ 田中英里奈	小笠原幹夫 米望和美	小林伯子	9
須坂市	島田博雄	島田博雄 嶋倉徳子	小林千鶴子 塚田和男	竹前美枝子 柴田茜	伊賀雅志	師岡京子	8
中野市	増田正明	増田正明 阿部浩子	西山真希 仮屋慶一	長張茂樹 阿部恵子	高野美紗 藤澤重徳	鈴木大三 高野友志	10
飯山市	藤田波留美	藤田波留美 荻原貢	藤木義博 宮崎尚子	小坂晶子	柳節子	東理恵子	7
千曲市	小林京子	小林京子 児玉みどり	小林いせ子 丑丸明英	窪田しおり 山崎友幸	寺澤憲一 柳澤正寿	大谷珠美 堀口強	10
坂城町	上野敬一	上野敬一 池田隆	宮原広美 宮澤宏	上條昌夫	高井資昌	中澤仁子	7
小布施町	池田清栄	飯田岩雄 吉池久美子	池田清栄	久保田智子	中村千恵	新井重則	6
高山村	黒岩裕子	黒岩裕子 姉川久見子	藤沢秀雄 神田和幸	黒岩清道	牧武	山口龍雄	7
山ノ内町	羽田吉彦	羽田吉彦 佐藤東子	高田佳久 湯本清人	竹内由紀	外山俊	山本眞紀子	7
木島平村	滝沢良一	滝沢良一	岩井眞里子	外山珠代	佐藤富喜子	山崎智恵美	5
野沢温泉村	嶋田孝至	嶋田孝至 雪入哲也	富井達之 石原英樹	宮崎智子	池田順子	杉山僚	7
信濃町	本山富雄	本山富雄 千野 悟	相澤道雄	小林稔	須坂はるみ	風間純子	6
飯綱町	小林悦夫	小林悦夫 佐藤由佳	永原英子 柳澤立子	上野千野子 坂戸晴俊	大川千恵子	小林浩道	8
小川村	花田隆夫	花田隆夫	塚田綾子	下園千登世	柳澤隆一	小林浩一	5
栄 村	齋藤保	齋藤保	西澤慎治	山田知周	杉浦恵子		4

合計 106

局長 古畑祐二 局員 齊藤英明
事務局 北信教育事務所 TEL026-234-9552(直通)

あとがき

北信地区社会教育委員連絡協議会 副会長 小林 京子（千曲市）

令和7年度の北信地区社会教育委員連絡協議会の事業は、皆様のご協力により実施され無事に終了することができました。その活動のまとめとして「地域・人・かわりを求めて」をお届けする運びとなりました。

連絡協議会では、令和7年度の15市町村の取り組み、実践の様子などを報告して頂きました。協力して頂いた皆様には、感謝申し上げます。そしてこの冊子をフルに活用して頂き、各市町村との繋がりがより深いものになれば幸いと感じています。

昨年は、初の女性総理大臣が誕生して、マスコミが挙って女性の活躍を取り上げていました。男女平等と言われつつも現実には、男尊女卑の傾向があったかと思えます。しかし女性の総理大臣が誕生したことで常識が覆り男性か女性かは、問題にならなくなったと感じた年でもありました。

社会教育の観点からすれば、女性も遠慮することなくパワーを発揮して、これぞと思うことを仲間と協力して実践していけば、これからの社会教育は、盤石なものになると感じました。

11月に横浜で開催された第56回関東甲信越静社会教育研究大会に参加する機会を頂きました。「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」を大会スローガンに開催されました。分科会には、長野県下諏訪町の「黒ヶ塔黒曜石原産地遺跡を題材にした学び～紙芝居を作った私たちの物語～」の発表があり長野県にとっても、自慢できる内容でした。

こつこつ積み上げた成果が大きな舞台での発表になり人々に感動してもらえることの素晴らしさを体験できた大会でした。これからも学んだことを生かせるような地道な活動をしていきたいと思いました。